



50<sup>th</sup> Anniversary  
設立五十周年記念誌

公益社団法人 熊本県理学療法士協会

# 公益社団法人 熊本県理学療法士協会 設立50周年記念誌

## 目 次

### ご挨拶

ご挨拶 .....	公益社団法人 熊本県理学療法士協会 会長 坂崎 浩一	1
-----------	----------------------------	---

### 祝 辞

祝 辞 .....	熊本県知事 蒲島 郁夫	2
祝 辞 .....	公益社団法人 熊本県医師会 会長 福田 稠	3
祝 辞 .....	公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 斉藤 秀之	4
祝 辞 .....	一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長 牛嶋由紀雄	5
祝 辞 .....	一般社団法人 熊本県言語聴覚士会 会長 池寄 寛人	6
祝 辞 .....	日本理学療法士協会 九州ブロック会 会長 中田 洋輔	7

熊本県理学療法士協会及び日本理学療法士協会のあゆみ .....	8
---------------------------------	---

賛助会員様一覧（令和6年1月1日現在） .....	9
---------------------------	---

熊本県理学療法士協会 各種表彰受賞者 .....	10
--------------------------	----

熊本県理学療法士協会 組織図 .....	13
----------------------	----

熊本県理学療法士協会 役員一覧（令和5年6月現在） .....	14
---------------------------------	----

熊本県理学療法士協会 歴代役員及び部局長一覧 .....	15
------------------------------	----

熊本県理学療法士協会 歴代ブロック長一覧 .....	18
----------------------------	----

### 設立50周年記念式典

「熊本県理学療法士協会 設立50周年記念式典・祝賀会」次第 .....	20
出席者 .....	21

熊本県理学療法士協会 設立50周年記念式典写真集 .....	22
--------------------------------	----

熊本県理学療法士協会 設立50周年祝賀会写真集 .....	24
-------------------------------	----

熊本県理学療法士協会 歴代会長一覧 .....	30
-------------------------	----

## 設立50周年に寄せて

熊本県理学療法士会設立50周年、ともにあった私の30年 .....	第6代会長 小川 克巳 .....	31
設立50周年記念に寄せて.....	第7代会長 森重 康彦 .....	32
熊本県理学療法士協会50周年に寄せて.....	第8代会長 北里 堅二 .....	33

## 熊本県理学療法士協会 公益事業写真集

くまもと『PTあ! (ピタ)』っと健康講座／全国一斉介護予防キャンペーン／ 熊本城マラソンボランティア .....	34
県民健康スポーツ教室／市民公開講座 .....	35

## 災害関連に対する対応

平成28年熊本地震時の災害リハビリテーション活動のお礼 三宮 克彦 .....	36
熊本県災害リハビリテーション推進協議会(熊本JRAT)の活動 佐藤 亮 .....	38

## 熊本県理学療法士学会 学会誌の変遷

表紙写真 .....	40
------------	----

## 広報誌「かくどけい」の変遷

各号表紙 .....	43
------------	----

## 各部局紹介

事務局（総務部・庶務部・厚生部） .....	53
教育学術局（学術部・教育部）卒後教育班・臨床実習教育班・管理・運営教育班 .....	55
（専門領域部）呼吸循環班・小児班・スポーツ班・中枢神経班・糖尿病班・訪問リハ班 .....	58
地域局 .....	63
社会局（公益事業推進部・保健福祉部・医療保険部・介護保険部・広報宣伝部） .....	64
学会評議委員会 .....	68
政策企画室 .....	69
倫理委員会 .....	69
組織体制審議委員会 .....	70
選挙管理委員会 .....	70

シンボルマークの変遷 .....	71
------------------	----

編集後記 .....	72
------------	----

## ご挨拶

公益社団法人 熊本県理学療法士協会  
会長 坂崎 浩一



熊本県理学療法士協会は多くの方々に支えられ、ここに設立 50 周年を迎えるに至りました。これまでのご支援に対し感謝の意を直接にお伝え致したく、2023 年 11 月 25 日に記念式典及び祝賀会を計画ご案内申し上げましたところ、関係団体代表様及び賛助会員様をはじめ、本会の発展にお力添え頂いた多くの方々のご臨席を賜り、盛大に挙行できましたこと改めて深く感謝申し上げる次第です。この度、その締めくくりとして 50 年を振り返り「熊本県理学療法士協会設立 50 周年記念誌」を上梓するに至りました。ご祝辞を賜りました関係の皆さまのご協力に深甚なる敬意と謝意を申し上げます。

さて、熊本県における理学療法士の組織的な活動は、昭和 46 年に遡り、先輩理学療法士 5 名が集い熊本県理学療法士会を結成したことに始まります。当時は日本理学療法士協会の地方組織として、会員間の情報交換や研修会等の開催を中心に活動をしていたと伺っております。10 年後の昭和 56 年には県内に養成校が開校し、会員数も右肩上がりに増えるに至りました。理学療法士としての教育・学術活動はもとより、熊本市保健医療専門団体連合会や熊本県医療・保健・福祉団体協議会の一員として医師会様・歯科医師会様・薬剤師会様、看護協会様等 関連する多くの団体様と協力連携した対外的活動も増えるなど、本会に対する社会的ニーズも高まって参りました。

そのような背景を受け、平成 6 年には社団法人を、そして平成 25 年には公益社団法人の認可を受け、県民の医療・保健・福祉の向上に寄与するべく、健康講座などの県民向けの事業、健康フェスティバルなど関連団体と連携した事業、学会・研修会など専門職向けの事業など 様々な活動を続けて参りました。

その過程で賛助会員の皆様には医療機器や福祉用具に関する情報提供等含めて永年にわたりご支援を頂きました。熊本県作業療法士会様、熊本県言語聴覚士会様とはリハビリテーション専門職三団体協議会を組織し、回復期、地域・生活期における人材育成を進めることができるようになりました。九州各県の理学療法士会様とは、教育面・学術面のみならず、スポーツ交流や災害時対応についても連携を図るに至っております。

振り返れば、平成 28 年の熊本地震、令和 2 年の豪雨災害等、大きな災害を前にたじろぐこともございましたが、多くの方々のご支援あっての本会の今日があるものと心より御礼申し上げます。次第です。

現在、本会会員は 2,545 名を数えるに至り、年間の事業数は細かいものまで含めれば 200 を超える活動を行う団体と相成りました。その礎をお築き頂いた歴代会長並びに諸先輩方のご尽力に応えるべく、そして県民の医療・保健・福祉の向上に更に寄与すべく、役員一同 今まで以上に努力する所存でございますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 祝 辞

熊本県知事  
蒲島 郁夫



公益社団法人熊本県理学療法士協会が、設立 50 周年という節目の年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

皆様方におかれましては、昭和 46 年の熊本県理学療法士会結成から、長きに渡り活動を継続される中で、平成 6 年には社団法人として、平成 25 年には公益社団法人として活躍の場を段階的に拡大され、県民の保健・医療・福祉の発展に向けた種々の活動を通じて、地域での存在感を高めてこられました。これまでの御努力に対し、深く敬意を表します。

さて、皆様御承知のとおり、高齢者人口の増加に伴い、県民が生涯を通じて、健康で心豊かに暮らし続けるうえで、高齢者の身体活動や運動の重要性が更に高まっています。とりわけ、理学療法士の皆様方が担われている、運動機能の維持や改善に対しては、今後、ますます社会全体からのニーズが高まっていくものと考えています。

このような状況の中、貴会におかれましては、県民向けの公開講座開催や、県や市町村、保健・医療・福祉関連団体が開催するイベントへの講師派遣など、各種の活動を行っていただいています。これらの取組みは、熊本県が「誰一人取り残さないくまもとづくり」のスローガンのもと推進している、「健康寿命の延伸」に欠かせないものとなっています。県民の健康向上に対する、多方面にわたる御貢献に心から感謝申し上げます。

また、本県は熊本地震と令和 2 年 7 月豪雨という二度の大災害と、新型コロナウイルス感染症の 3 つの困難に見舞われました。私は「逆境の中にこそ夢がある」という信念のもと、この 3 つの困難を乗り越え、創造的復興を推進することはもちろん、その先にある地方創生の実現を目指しています。生産年齢人口の減少が急速に進み、地域の医療提供体制の維持が喫緊の課題となっている中において、理学療法の普及向上を担う貴会に求められる役割は、今後益々大きくなるものと考えます。これからも、県民の命と健康、そして元気で住みやすい熊本県の実現に向けて、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後になりますが、公益社団法人熊本県理学療法士協会の今後益々の御発展と、皆様方の御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

公益社団法人 熊本県医師会  
会長 福田 稠



この度、公益社団法人理学療法士協会が設立 50 周年を迎えるに当たりまして、熊本県医師会を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

現在のリハビリテーションという言葉が世界的に使われるようになったのは、第 1 次世界大戦の戦時中から戦後と言われており、戦争で負傷した兵士の短期回復のための兵士リハビリテーションがきっかけとも言われております。

その後、リハビリテーション医学という言葉は、1950 年代前半に現れて 1960 年代後半になって急速に広まっていき、1960 年代にリハビリテーションの目標が職業再訓練だけではなく、個人が生活全ての機能を発揮できることへと拡大しました。

1980 年代になると、高齢者に対する保険医療サービスや福祉サービスは、寿命の延長よりも QOL の維持向上を重視するようになり、現在では加齢に伴う退行変性や老化の予防や維持、病気や怪我を治療し、以前の状態に可能な限り近づけること、病気や疾病の 2 次障害のリスクを避けるための生活指導や予防リハビリテーション、そもそも障害の原因となる病気や怪我を予防するためのリハビリテーションなどが、現在の主なリハビリテーションの目的となっており、私たちの生活と切り離せない重要な部分を担っています。

超高齢社会を迎える中、医療・保健・福祉全体が一体となって協働する仕組み作りが必要ですが、病気・怪我・高齢・障害などによって運動機能が低下した状態にある方に対し治療を行う理学療法士の皆様がキーパーソンと言っても過言ではありません。地域共生に向け、益々のお力添えをお願いします。

また、熊本県における熊本県理学療法士協会と本会との活動に目を向けますと、地域におけるリハビリテーションを推進する中、様々な場面で深い係わりがございます。平成 11 年に本県で立ち上げた「熊本地域リハビリテーション支援協議会」設立時のメンバーとして、全国でも「熊本モデル」として注目されている本県のリハ体制の構築の一翼を担って頂いております。また、災害時の JRAT との連携、特に「平成 28 年熊本地震」後に、日本で最初の取組として行った「熊本県復興リハビリテーションセンター」やその後の「令和 2 年 7 月豪雨災害」での活動におきましても、理学療法士をはじめ多くのリハ職の方々に大変重要な役割を果たしていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

関係者の皆様におかれましては、この 50 周年を契機とし、今まで先輩達が築いてこられました伝統と貴重な財産を礎とされまして、地域医療・保健・福祉の充実、向上のために更なる飛躍をご期待申し上げます。

最後に、熊本県理学療法士協会の今後益々のご発展と関係者各位のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

公益社団法人 日本理学療法士協会  
会長 齊藤 秀之



公益社団法人熊本県理学療法士協会が設立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和 46 年に会員 5 名で発足され、平成 6 年に社団法人としての認可を受けられ「社団法人熊本県理学療法士協会」を設立。そして、平成 25 年には「公益社団法人熊本県理学療法士協会」に移行されました。この間、理学療法を通して熊本県民の医療・保健・福祉の増進に寄与してこられました歴代会長、役員、会員、関係者の皆様の並々ならぬご努力に深く敬意を表する次第です。

熊本県の花に制定されている花は「りんどう」と聞いています。落ち着いた雰囲気の魅力で、その凛とした姿には上品な雰囲気が漂います。まさに熊本県理学療法士協会の魅力と同じと言って過言ではないと思います。また、その花言葉は「勝利」「正義感」です。漢方として利用されるため、病に打ち勝つことがその由来と聞いております。そのことから「りんどう」には「あなたの悲しみに寄り添う」「寂しい愛情」という花言葉もあり、群生せずに単独で自生する特性にも通じるそうです。会の発足以来、熊本県民から愛され、数々の困難な課題を凛として対応され、この度 50 周年を迎えられた貴会の推進力は、「正義感」の花言葉に集約されると思慮しています。そして、その「正義感」のもと一致団結して取り組まれた成果として、様々な公益活動の活動実績があると推察しています。貴会が 50 周年を迎えられた今、新たな果実をつけられることをご期待申し上げます。

さて、21 万人の国家資格者を輩出してきた我々理学療法士の将来を見据えた時に、国民本位の現場実践力を醸成する、職場・地域単位での理学療法士の質向上に連動する卒前教育・卒後研修を積極果敢に取り組む必要があります。その醸成や成功の鍵は、都道府県理学療法士(協)会はもとより、市区町村での理学療法士の組織的活動や社会実学の実践にあると考えます。これらが実現した際には、国民に寄り添う唯一無二の専門職能組織として社会の中で確固たる存在になると確信しています。

地政学的には九州の中心の地で着実な歩みを積み重ね一步一步踏みしめながら、しっかりその足跡を残され、50 年にわたり確実にその業績を築いてこられた貴会の皆様には、これからの日本理学療法士協会の大いなる挑戦の先導役として、今まで以上のご活躍を期待します。

最後になりますが、50 周年を機に、貴会が坂崎浩一会長の強力なリーダーシップのもと、更にご発展されること、ならびに会員の皆様の一層のご活躍とご健康を心より祈念いたします。

## 祝 辞

一般社団法人 熊本県作業療法士会  
会長 牛嶋由紀雄



この度、公益社団法人熊本県理学療法士協会が設立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、1971 年の設立以来、半世紀にわたり、県民の医療・保健・福祉の向上、そして県民の健康増進のため理学療法の質の向上や理学療法士の活動支援にご尽力されました歴代協会会長ならびに会員の皆様に深く敬意を表します。

貴協会との関わりで思い出されますのが、2018 年の沖縄学会をもって終了いたしました「九州理学療法士・作業療法士合同学会」です。1979 年に「九州地区理学療法士研修会」として発足し、第 2 回長崎大会より作業療法士も参加、以降九州各県で持ち回り、38 回を数える全国的に類を見ない伝統ある合同学会でした。本県も担当県として 5 回の学会を開催しております。理学療法士と作業療法士が協働して、日頃の臨床活動、および研究を共有できる素晴らしい学会を作り上げてこられたことはとても意味あるものであったと今でも思っております。そして現在リハビリテーションにおける職能の垣根を超えた関係は、熊本県言語聴覚士会を含めた熊本県リハビリテーション専門職三団体協議会として、各会会員および関係職種を対象とした人材育成研修会を企画、開催しているところであります。各々の専門性を持ち寄ったリハビリテーションスキルの提示は、参加された方々の課題解決の一助となっているものと確信しております。また、熊本県医療・保健・福祉団体協議会や熊本市保健医療専門団体連合会等にも共に参画し、各関係団体と連携して、よい地域づくりのため協議、活動を積み重ねております。

ご承知のごとく、日本では諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行し、県内においても 65 歳以上の高齢者人口が 55 万人を超え、75 歳以上の後期高齢者や認知症者の比率も増え続けております。これに伴い医療・介護へのニーズは一層高まり、リハビリテーション専門職へ寄せられる期待はより大きくなるものと考えます。この期待に応えるべく、地域包括ケアシステム、そして地域共生社会の構築に寄与でき得るリハビリテーションの質の向上に、関連団体とともに推し進めていきたいと考えております。

今後も私たちは、リハビリテーション医学・医療の発展のため貴協会とともに努力してまいります。50 周年という節目を機に、貴協会が更にご発展されますことを衷心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 祝 辞

一般社団法人 熊本県理学療法士協会  
会長 池 寄 寛 人



この度は、公益社団法人熊本県理学療法士協会の設立 50 周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。一般社団法人熊本県言語聴覚士会会長として、お祝いの意味を込めて、ご挨拶を申し上げます。

貴会は、1971 年（昭和 46 年）の熊本県理学療法士会結成以来、50 年の長きに渡り、リハビリテーション専門職の先陣をきって、熊本県民の医療・保健・福祉の発展に尽力され、地域住民の健康的な生活を支えるだけでなく、専門職の卒後教育にも取り組まれ、数多くの有為な人材を輩出してこられました。

また、この 50 年の間、公益社団法人熊本県理学療法士協会の皆様は、数々の困難に立ち向かい、熊本県民の健康維持に貢献するために全力を尽くされてきました。近年では、2016 年の熊本地震、2020 年の人吉豪雨災害における貴会協会員の皆様の精力的な活動は記憶に新しいところと存じます。

そして、近年では、リハビリテーション三団体協議会として、三団体が連携しともに力を合わせ、自立支援に向けた多職種人材育成事業や熊本県回復期病床機能強化事業などにも取り組むようになりました。これも長年にわたり貴会協会員の皆様の献身的な努力と、地域社会との緊密な連携の賜物であります。

公益社団法人熊本県理学療法士協会、一般社団法人熊本県作業療法士会、一般社団法人熊本県言語聴覚士会のリハビリテーション三団体は異なる専門性を持ちながらも、共通の目的を追求してまいりました。今後も密接に関わり三団体が連携することで、地域の皆様に対して良質で安全なリハビリテーションサービスや医療・保健・福祉・介護サービスを提供し、熊本県民の健康と幸福に貢献できることを確信しています。

一般社団法人熊本県言語聴覚士会は、これからも三団体で手を取り合い、地域のニーズに敏感に対応し、より良いリハビリテーションの提供に努めてまいります。

未筆ながら、公益社団法人熊本県理学療法士協会の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞

日本理学療法士協会 九州ブロック会  
一般社団法人 宮崎県理学療法士会  
会長 中田 洋輔



公益社団法人熊本県理学療法士協会が設立 50 周年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。日本理学療法士協会九州ブロック会を代表致しましてお祝いを申し上げます。

現在、組織代表を務められます坂崎会長をはじめこれまで貴会を支えてこられた歴代会長様方、諸先輩方そして行政、関係団体の皆様方に尽きましても心から敬意を表します。

さて、昭和 46 年に当時 5 名から発足以来、現在では 2,500 名程の会員になり熊本県の地域医療の発展、保健、福祉の充実のみならず積極的な学術活動に邁進してこられ、九州理学療法・作業療法合同学会では第 3 回九州地区理学療法・作業療法研修会、第 11 回、第 19 回、第 27 回、第 35 回九州理学療法・作業療法学会を担当されました。当時から熊本県理学療法士協会様は理学療法の普及啓発や臨床教育の在り方について非常に熱心に取り組んでこられた県でもあると認識しており、現在の臨床参加型の教育など熊本県版の臨床実習教育マニュアルをいち早く作り上げたことを記憶しております。

さらに地域支援活動では、2016 年（平成 28 年）4 月 14 日に発災した熊本地震は記憶に新しくこの甚大な震災により、災害リハ支援活動の実際は地域 JRAT と同調・協働する態勢を構築すべく長期化する支援活動を体験しリハビリテーション専門職が災害に対しての支援活動への意識づけや組織体制を強化していく基盤を作って頂きました。これは、一重に熊本県理学療法士協会がサステナブルな組織運営をされてきた賜物であると切に感じるところです。

そしてまた公衆衛生の向上についても今後さらに 2025 年にむけた地域包括ケアシステムの構築を深化の方向へ導くためには一次予防に如何にリハビリテーション専門職が関わり多職種連携をさらに密にしていくことが重要です。

そして、「運動の専門家」としての専門性をより多くの方々へ健康増進、介護予防、自立支援、重度化予防の一助に成り得る専門職団体へ成長が期待されます。

これまでの 50 年で築き上げてきた歴史と信頼とこれからの 50 年を築いていく組織力を日本理学療法士協会九州ブロック会として大変期待を致しております。

結びにあたりまして、今後さらに熊本県の医療・介護・福祉の発展のために強靱な復興精神でこれからの未来永劫益々のご発展とご活躍を祈念致しましてお祝いの挨拶とさせていただきます。

設立 50 周年、誠におめでとうございます。

## 熊本県理学療法士協会及び日本理学療法士協会のあゆみ

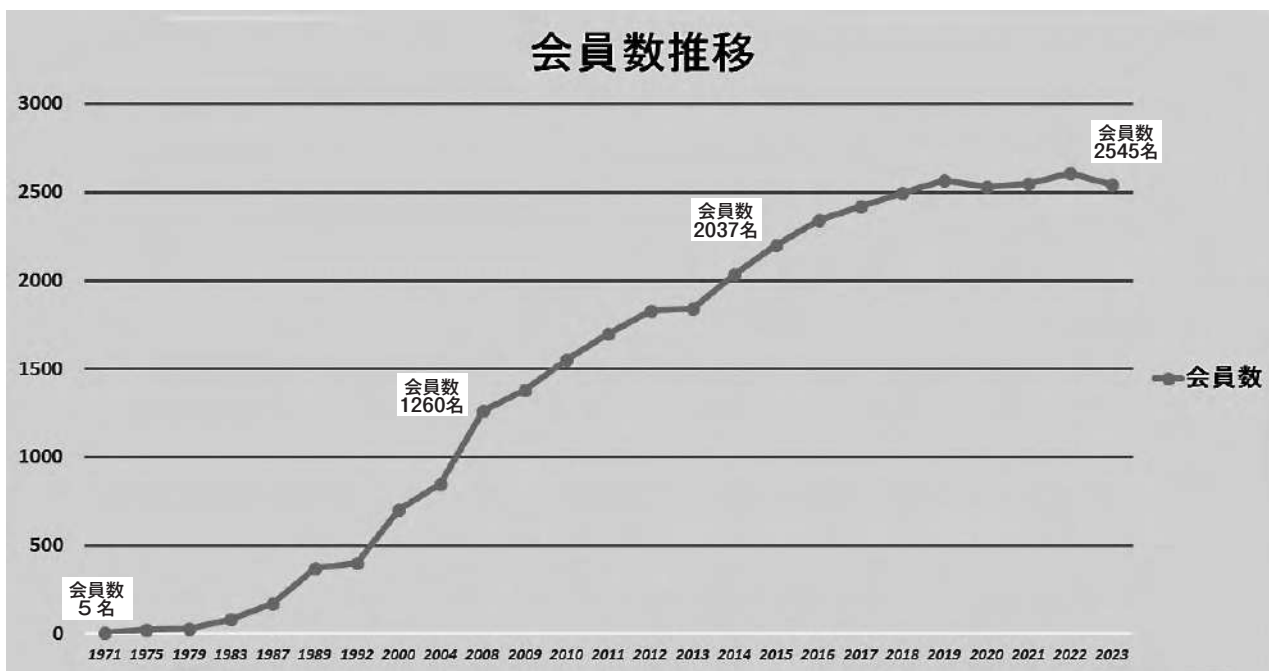
日本理学療法士協会は1966年（昭和41年）7月17日に有資格理学療法士110名により結成されました。

現在、7月17日は『理学療法の日』に制定されています。

熊本県理学療法士協会では、この『理学療法の日』にちなんだイベント（公益事業）を住民向けに実施しています。

		熊 本	日 本
1963年	昭和38年		日本初の理学療法士養成施設（国立療養所東京付属リハビリテーション学院）開設
1965年	昭和40年		理学療法士及び作業療法士法 公布
1966年	昭和41年		日本理学療法士協会 設立
			第1回日本理学療法士学会 開催
			第1回日本理学療法士全国研修会 開催
1971年	昭和46年	熊本県理学療法士会を結成（会員数5名）	
1972年	昭和47年		厚生省（現厚生労働省）により社団法人として認可
1974年	昭和49年		世界理学療法連盟に加盟
1976年	昭和51年	初代会長に諸富国彦が就任	
1977年	昭和52年	第2代会長に深水英俊が就任	
1978年	昭和53年	第3代会長に池辺正治が就任	
1979年	昭和54年		短期大学教育 開始（金沢大学医療技術短期大学部）
1980年	昭和55年	第4代会長に高柳朔司が就任	
1981年	昭和56年	熊本リハビリテーション学院（現 熊本総合医療リハビリテーション学院）及び西日本リハビリテーション学院開校	
			第3回九州地区理学療法士・作業療法士研修会開催
1983年	昭和59年	広報誌「かくどけい」創刊	
1987年	昭和62年	第22回全国研修会開催	
1988年	昭和63年	第5代会長に中野昭二が就任	
1989年	平成元年	第11回九州理学療法士・作業療法士合同学会開催	
1990年	平成2年		日本学術会議により学術研究団体として認定
1992年	平成4年	第6代会長に小川克巳が就任	大学教育開始（広島大学医学部保健学科理学療法専攻）
1994年	平成6年	社団法人 熊本県理学療法士協会を設立	本会新人教育プログラム開始
1997年	平成9年	第19回九州理学療法士・作業療法士合同学会開催	本会生涯学習システム・専門理学療法士制度 導入
1998年	平成10年		千駄ヶ谷会館 竣工
1999年	平成11年	養成施設カリキュラム改訂 規制緩和政策により養成校増加	第13回世界理学療法士連盟学会 開催（横浜市）
2000年	平成12年	メディカルカレッジ青照館 開校	
2003年	平成15年	第7代会長に森重康彦が就任	
2005年	平成17年	第27回九州理学療法士・作業療法士合同学会開催	
2006年	平成18年	九州中央リハビリテーション学院及び九州看護福祉大学 リハビリテーション学部 開校	
2007年	平成19年	熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科開設	
2008年	平成20年	熊本駅前看護リハビリテーション学院 開校	全国会員数 50,000名
2009年	平成21年	第8代会長に北里堅二が就任	理学療法士の衆議院議員が誕生
2011年	平成23年	ホームページによる会員情報管理システム運用及び一般への情報発信を開始	全国会員数 70,000名
2012年	平成24年		内閣総理大臣により公益社団法人として認可
2013年	平成25年	公益社団法人 熊本県理学療法士協会を設立 第35回九州理学療法士・作業療法士合同学会開催	
2015年	平成27年	西日本リハビリテーション学院 閉校	日本理学療法士協会 設立50周年 第50回日本理学療法士学術大会開催

2016年	平成28年	熊本地震が発生	
2017年	平成29年		アジア理学療法フォーラム開催（東京）
2018年	平成30年	第9代会長に坂崎浩一が就任	
2020年	令和2年	県南地域を中心に令和2年7月豪雨が発生	新会館竣工 事務局機能を移転
2021年	令和3年		学術機能の一部を一般社団法人日本理学療法学会連合およびその会員（法人学会12団体・学術団体会員8団体）に移管
2023年	令和5年	九州理学療法学会in熊本2023を開催 会員数2,545名	



	S46	S50	S54	S58	S62	H1	H4	H12	H16	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
会員数	5	20	30	80	170	370	400	700	850	1260	1380	1550	1700	1830	1843	2037	2199	2343	2421	2493	2569	2529	2550	2608	2545

## 賛助会員一覧（令和6年1月1日現在）※五十音順

- アメックス熊本 株式会社
- 有園義肢 株式会社
- 株式会社 藺田義肢製作所
- 株式会社 タガワブレース
- 株式会社 徳田義肢製作所
- 株式会社 ホワシ
- 株式会社 ミタカ
- 帝人ヘルスケア 株式会社
- 有限会社 熊本託麻義肢
- 有限会社 三栄商会（サンエイメディカル）

## 熊本県理学療法士協会 各種表彰受賞者

- ・ 東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状

平成26年度	団体	医療法人社団 寿量会
	個人	林 寿恵
- ・ 公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰

平成25年度	赤星 朱美	熊本市障がい者福祉相談所
--------	-------	--------------
- ・ 読売新聞社主催 都道府県 医療功労賞

平成22年度	楠本 敬二	熊本県こども総合療育センター
平成25年度	今村 太泉	さかなしハートクリニック
平成26年度	寺川 純晴	デイケア通所リハビリ ふれあい倶楽部
平成28年度	江上 力也	重症心身施設はまゆう療育園
- ・ 熊本県医事薬事健康づくり功労者及び優良団体等知事表彰

平成20年度	(社)熊本県理学療法士協会	
--------	---------------	--
- ・ 熊本県健康づくり県民会議表彰

平成22年度	(社)熊本県理学療法士協会	
--------	---------------	--
- ・ 日本理学療法士協会 協会賞

平成16年度	山口 拓明	水俣市立湯の児病院
平成17年度	森田 秀昭	熊本託麻台病院
平成18年度	福田 猛	熊本労災病院
平成19年度	小川 克巳	熊本リハビリテーション学院
	森 信孝	水俣市立総合医療センター
平成20年度	高濱 照	九州中央リハビリテーション学院
平成29年度	大島 正道	熊本セントラル病院
	森重 康彦	あけぼのクリニック
平成30年度	北里 堅二	菊南病院
令和元年度	田島 徹朗	九州中央リハビリテーション学院
令和2年度	野津原 豊	野津原内科医院
令和3年度	坂崎 浩一	熊本総合医療リハビリテーション学院
令和4年度	河添竜志郎	(株)くますま
- ・ 日本理学療法士協会 感謝状(人命救助)

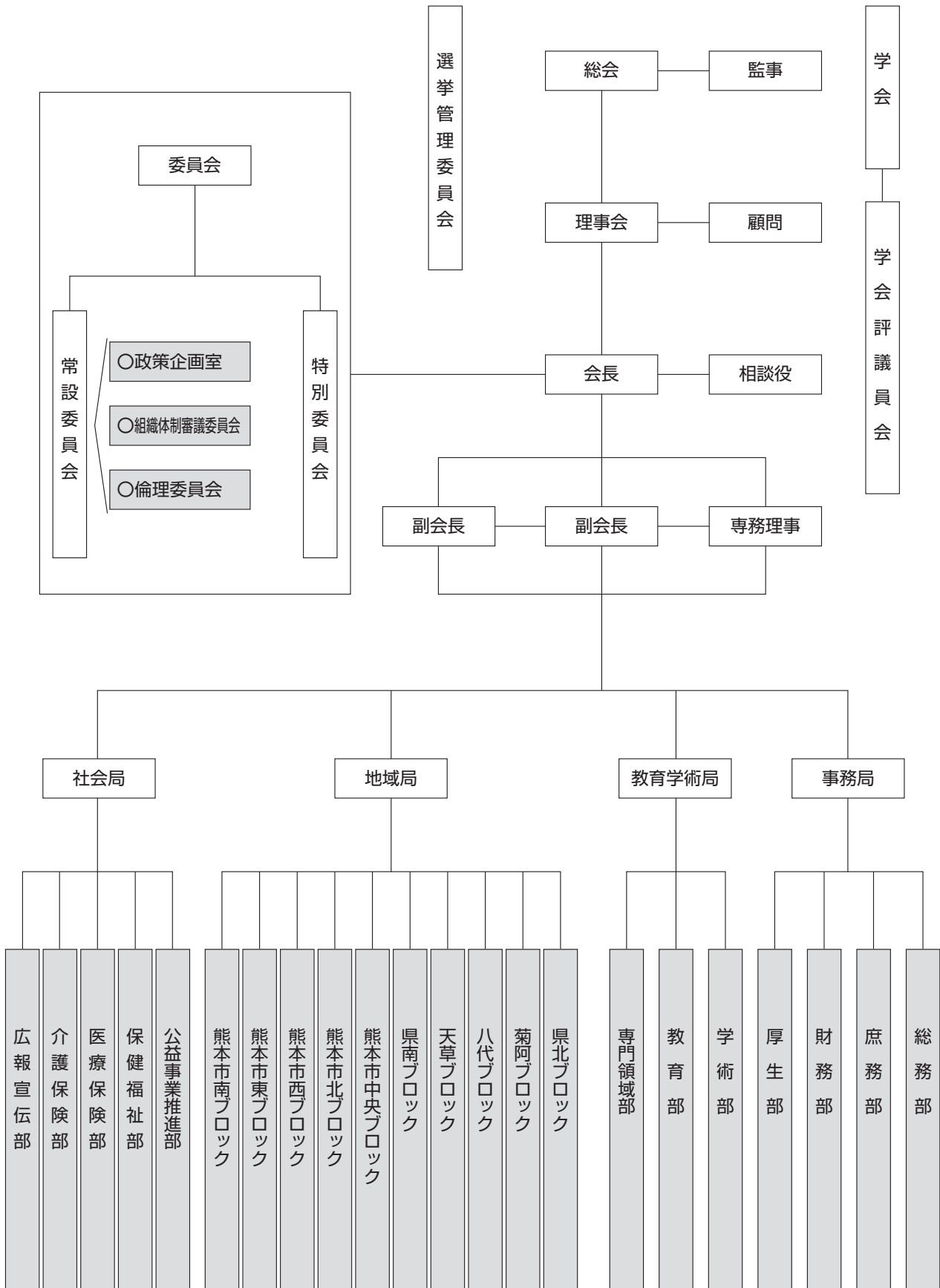
令和3年度	荒牧 貴英	中村整形外科
-------	-------	--------

年 度	りんどう賞		学会長賞 学会新人賞		感謝状	
	氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属
平成20年度	上原恵理奈 西平理恵子 山本 知昌	おがた小児科医院 清水整形外科医院 成尾整形外科病院				
平成21年度	長福 武志 藤崎 拡憲	熊本セントラル病院 熊本託麻台病院				
平成22年度	溝上 真也 川畑 智	球磨病院 芦北町社会福祉協議会				
平成23年度	上村 幸司	東病院	池田 真人 當利 賢一 有村 裕子 杉本 一洋 橋本 隆哉	整形外科井上病院 介護老人保健施設 清雅苑 青磁野リハビリテーション病院 熊本セントラル病院 熊本リハビリテーション病院		
平成24年度	中野 真実	勝久病院	堀内 太嗣 鏝水亜須香 荒川 広宣 池田 光世 磯田幸一郎 寺島 裕雅	熊本機能病院 熊本リハビリテーション病院 高野病院 天草慈恵病院 済生会みすみ病院 済生会熊本病院	<b>感謝状</b> 南野 大佑	熊本セントラル病院
平成25年度			中熊 康浩 青木 大輔 緒方 智子 五瀬 彩乃 浦田 聖也	清水整形医院 熊本機能病院 熊本リハビリテーション病院 江南病院 整形外科井上病院		
平成26年度	大橋 妙子 岩下 功平 谷口 義昭	熊本機能病院 熊本機能病院 熊本機能病院			<b>感謝状</b> 前田比呂志 野間 俊司 野尻 晋一 藤原 慶太 岸本 稔 岩下 佳弘 木原 伸一 前本 英樹 市原 里佳 <b>二十年功労賞</b> 草野 隆夫	(有)健康福祉者 アフティアール昭孝園 鴻江病院 介護老人保健施設 清雅苑 竜山内科リハビリテーション病院 熊本セントラル病院 熊本保健科学大学 武蔵ヶ丘病院 熊本中央病院 江南病院 平成とうや病院
平成27年度	竹内 睦雄 波多埜克宜	熊本機能病院 にしくまもと病院	栗崎 友里 横井 亮祐 富田 愛 岩見 幸省 岡村 剛志 小林 道弘	江南病院 熊本セントラル病院 西日本病院 熊本セントラル病院 御幸病院 高野病院	<b>感謝状</b> 中島喜代彦	九州中央リハビリテーション学院

※りんどう賞とは入会后3年以上で、部局又はブロック活動などを献身的に行った会員や、複数回の学会発表や論文執筆などの学術実績がある会員を表彰するものである

年度	りんどう賞		学会賞 学会新人賞		その他	
	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
平成28年度	野原 慎二	江南病院	米徳 一博 葛城 裕 渡邊 愛可 山道 渡	熊本機能病院 江南病院 平成とうや病院 成尾整形外科病院	<b>感謝状</b> 大島 正道 川上 照美 三宮 克彦	熊本セントラル病院 介護老人保健施設 おとなの学校本校 熊本機能病院
平成29年度	石川 陽介 岩下 智子 内田 康弘 鏑木 誠 水田 順司 森 英誌	済生会熊本病院 熊本セントラル病院 おおもり病院 熊本保健科学大学 東整形外科 あけぼのクリニック	高木 祥吾 奥村 祐子 篠原 直貴 長野 文彦 早野 翔大 松相亜利砂	成尾整形外科病院 歩行リハビリセンター-HOKORU 熊本機能病院 熊本リハビリテーション病院 九州記念病院 平成とうや病院		
平成30年度	立川 衛	介護老人保健施設 松朗園	浅香 雄太 奥村 渉 木村 友美 北田 隼人 中島 裕太 横田 大作	熊本機能病院 平成とうや病院 武蔵ヶ丘病院 有明成仁病院 熊本機能病院 御幸病院	<b>感謝状</b> 北里 堅二 寺川 純晴 森重 康彦 松本 泉 前田 英児	菊南病院 デイケア通所リハビリ ふれあい倶楽部 あけぼのクリニック 熊本駅前看護リハビリテーション学院 にしくまもと病院
令和元年度	杉本 一洋 永田 光寿	熊本セントラル病院 水俣市立総合医療センター	備瀬 隆広 廣瀬 優 清田 大喜 大仁田 彩 野中 大和 内田 裕	熊本リハビリテーション病院 熊本託麻台リハビリテーション病院 高野病院 武蔵ヶ丘病院 くまもと成仁病院 熊本機能病院		
令和2年度	田中 聖也 川本 彩果 大塚 庸平	チャレッジ保育園 きぬはら整形外科クリニック たしま整形外科クリニック	野田 祐也 吉岡 瑞生 田宮 史章 後藤 優希 田代 貴子 内藤 綾乃	せんだメディカルクリニック (株)SENSTYLE 武蔵ヶ丘病院 武蔵ヶ丘病院 西日本病院 江南病院		
令和3年度	宇野 勲 森 義貴 赤瀬 諒市 宮木 一也	桜十字病院 熊本機能病院 熊本機能病院 天草中央総合病院				
令和4年度	田代 幸大 岡本 彬 植田佳奈子	山鹿温泉リハビリテーション病院 にしくまもと病院 熊本リハビリテーション病院	植田佳奈子 安武紗也加 大塚 智浩 狭間翔次郎	熊本リハビリテーション病院 介護老人保健施設 清雅苑 熊本セントラル病院 介護老人保健施設 清雅苑	<b>感謝状</b> 楠本 敬二	熊本県子ども総合療育センター
令和5年度	宇野 晃輔 木村 友亮 山畑 公弘	宇城総合病院 熊本労災病院 天草中央病院附属介護老人保健施設	田中 貴士 長瀬 聖司 工藤あかり 田中貴代香 岡田 純怜 平尾 総康	熊本保健科学大学 山鹿温泉リハビリテーション病院 熊本セントラル病院 成尾整形外科病院 熊本市立植木病院 江南病院		

## 熊本県理学療法士協会 組織図





## 熊本県理学療法士協会 役員一覧

役 職	氏 名	所 属
会 長	坂崎 浩一	熊本総合医療リハビリテーション学院
副 会 長	田島 徹朗	九州中央リハビリテーション学院
副 会 長	岸本 稔	九州中央リハビリテーション学院
専務理事	大脇 秀一	朝日野総合病院
理 事	飯星 雅朗	九州中央リハビリテーション学院
理 事	大籠 安男	株式会社南阿蘇ケアサービス
理 事	北尾 昌平	株式会社ともいきLabo
理 事	坂田 大介	熊本機能病院
理 事	佐藤 亮	山鹿温泉リハビリテーション病院
理 事	四海 公貴	訪問看護・リハビリステーション ふいっと
理 事	竹内 久美	熊本託麻台リハビリテーション病院
理 事	筒井 宏益	江南病院
理 事	野津原 豊	野津原内科医院
理 事	波多埜克宜	にしくまもと病院
理 事	林 寿恵	阿蘇温泉病院
理 事	光本しのぶ	訪問看護ステーション きらら
理 事	保田 佳史	くまもと県北病院
理 事	山口 里美	宇城総合病院
理 事	吉橋謙太郎	谷田病院
監 事	日野 賢司	荒尾市立 有明医療センター
監 事	北里 堅二	水前寺高齢者複合施設

## 熊本県理学療法士協会 歴代役員及び部局長一覧

(昭和61年度～令和5年度)

	昭和61年度	昭和63年度	平成3年度	平成4～5年度	平成6～8年度	平成9～11年度
会 長	高柳 朔司	中野 昭二	中野 昭二	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳
副 会 長	中野 昭二 森田 秀昭	山口 拓明 小川 克巳	小川 克巳 福田 猛	福田 猛 福本 和仁	福田 猛 森重 康彦	森重 康彦 大島 正道
事 務 局 長	森重 康彦	森重 康彦	日野 邦彦	日野 邦彦	坂崎 浩一	坂崎 浩一
理 事	小川 克巳	中島喜代彦	中島喜代彦	中島喜代彦	大島 正道	北里 堅二
	福本 和仁	北里 堅二	福本 和仁	山田 隆治	北里 堅二	楠本 敬二
	玉垣 均	中山 忠好	森 信孝	坂崎 浩一	楠本 敬二	小森田 宏
	中山 忠好	福田 猛	高口 光子	高口 光子	高口 光子	高口 光子
		福本 和仁	藤本 龍彦	藤本 龍彦	寺川 純晴	寺川 純晴
		藤本 龍彦	坂崎 浩一	寺川 純晴	福本 和仁	日野 賢司
監 事	深水 英俊 徳永 英世	高柳 朔司 園田 実裕 大川 裕	山口 拓明 森 利喜	中野 昭二 森田 秀昭	森田 秀昭 山口 拓明	森田 秀昭 福田 猛
	監 査	山口 拓明 森 利喜				
総 務 部 長			野崎 雄二	野崎 雄二	山本 博子	山本 博子
庶 務 部 長			三宮 克彦	三宮 克彦	福島 芳子	福島 芳子
財 務 部 長			東 俊雄	東 俊雄	徳井美由紀	徳井美由紀
厚 生 部 長	中山 忠好	中山 忠好	中山 忠好	本田 隆	本田 隆	本田 隆
調 査 資 料 部 長			藤本 龍彦	高本 誠一	高本 誠一	高本 誠一
渉 外 部 長	森田 秀昭	森田 秀昭	高口 光子	高口 光子	坂崎 浩一	坂崎 浩一
保 険 部 長	高柳 朔司				永尾 泰司	小森田 宏
広 報 部 長	福本 和仁	福本 和仁	坂崎 浩一	坂崎 浩一	猿渡 浩年	猿渡 浩年
宣 伝 部 長				萩原 力	草野 隆夫	草野 隆夫
学 術 部 長	小川 克巳	小川 克巳	中島 喜代彦	中島 喜代彦	田島 徹朗	田島 徹朗
学 術 事 業 部 長				松下 博	松下 博	松下 博
生 涯 学 習 部 長						高浜 照
福 祉 部 長	玉垣 均	玉垣 均	森 信孝	高口 聡	高口 聡	高口 聡
事 業 部 長					中村 幸生	中村 幸生
規 約 審 議 委 員 長					吉田 聡	吉田 聡
表 彰 審 査 委 員 長					赤木 幹雄	赤木 幹雄
法 人 事 業 審 議 委 員 長					日野 賢司	日野 賢司
選 挙 管 理 委 員 長	佐藤 友昭				篠田 聡	篠田 聡
生 涯 学 習 シ ス テ ム 検 討 委 員 長					高浜 照	

	平成12～14年度	平成15～17年度	平成18～20年度	平成21～23年度	平成24年度	平成25年度
会 長	小川 克巳	森重 康彦	森重 康彦	北里 堅二	北里 堅二	北里 堅二
副 会 長	森重 康彦 大島 正道	大島 正道 北里 堅二	大島 正道 北里 堅二	大島 正道 小森田 宏	大島 正道 前田比呂志	大島 正道 前田比呂志
事 務 局 長	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一
教 育 学 術 局 長					田島 徹朗	田島 徹朗
社 会 局 長					光本しのぶ	光本しのぶ
地 域 局 長					飯星 雅朗	飯星 雅朗
理 事	小森田 宏	高口 光子	小森田 宏	飯星 雅朗	大脇 秀一	大脇 秀一
	高口 光子	小森田 宏	田島 徹朗	大脇 秀一	川上 照美	川上 照美
	田島 徹朗	田島 徹朗	野津原 豊	川上 照美	佐藤 亮	佐藤 亮
	野津原 豊	野津原 豊	野間 俊司	三宮 克彦	三宮 克彦	三宮 克彦
	野間 俊司	野間 俊司	前田比呂志	田島 徹朗	筒井 宏益	竹内 久美
	福本 和仁	前田比呂志	光本しのぶ	筒井 宏益	野津原 豊	筒井 宏益
	前田比呂志	光本しのぶ	大脇 秀一	野津原 豊	野間 俊司	野津原 豊
	光本しのぶ	河波 恭弘	増田 安至	野間 俊司	増田 安至	林 寿恵
		寺川 純晴		前田比呂志		前田 英児
			増田 安至		増田 安至	
			光本しのぶ		松本 泉	
監 事	森田 秀昭 福田 猛	福田 猛 小川 克巳	小川 克巳 寺川 純晴	寺川 純晴 中島喜代彦	寺川 純晴 中島喜代彦	寺川 純晴 中島喜代彦
監 査						
相 談 役				小川 克巳	森重 康彦	
総 務 部 長	山本 博子	山本 博子	山本 博子	山本 博子	山本 博子	山本 博子
庶 務 部 長	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子
財 務 部 長	徳井美由紀	徳井美由紀	徳井美由紀	徳井美由紀	久米野美由紀	久米野美由紀
厚 生 部 長	松岡 信之	松岡 信之	松岡 信之	藤原 慶太	藤原 慶太	藤原 慶太
調 査 資 料 部 長	高本 誠一	宮村 潤一	岸本 稔	岸本 稔	岸本 稔	岸本 稔
渉 外 部 長	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一
保 険 部 長	光本しのぶ	江藤 隆夫	江藤 隆夫	江藤 隆夫	江藤 隆夫	河島 英夫
広 報 部 長	平岡 俊彦	佐藤 亮	佐藤 亮	佐藤 亮	佐藤 亮	坂田 大介
宣 伝 部 長	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫
学 術 部 長	田島 徹朗	畑中 秀行	山田 稔晃	山田 稔晃	今屋 将美	岩田 輝彦
I T 事 業 部 長			岩下 佳弘	岩下 佳弘	岩下 佳弘	岩下 佳弘
教 育 部 長				前田 英児	前田 英児	前田 英児
学 術 事 業 部 長	高橋 秀一	高橋 秀一	高橋 秀一	高橋 秀一	岩田 輝彦	岩田 輝彦
生 涯 学 習 部 長	高浜 照	星澤 厚志	太田 研典	太田 研典	星澤 厚志	當利 賢一
福 祉 部 長	木原 伸一	木原 伸一	木原 伸一	木原 伸一	木原 伸一	木原 伸一
事 業 部 長	渡辺 徹	飯星 雅朗	山本 知昌	保田 圭史	保田 圭史	保田 圭史
規 約 審 議 委 員 長	吉田 聡	牛島 俊晶	黒土 達也	永崎 孝之	溝田 康司	
表 彰 審 査 委 員 長	赤木 幹雄	赤木 幹雄	山下 智弘	山下 智弘	山下 智弘	山下 智弘
法 人 事 業 審 議 委 員 長	立石 英夫	岩本眞一郎	岩本眞一郎	大籠 安男	大籠 安男	大籠 安男
選 挙 管 理 委 員 長	藤本 龍彦	中島喜代彦	中島喜代彦	奥村 哲生	奥村 哲生	奥村 哲生
糖 尿 病 小 委 員 長				溝上 真也	溝上 真也	溝上 真也
小 児 領 域 小 委 員 長				市原 里佳	市原 里佳	市原 里佳
呼 吸 領 域 小 委 員 長				前本 英樹	前本 英樹	前本 英樹
ス ポ ー ツ 領 域 小 委 員 長				西村 英治	西村 英治	西村 英治

		平成26・27年度	平成28・29年度	平成30・31年度	令和2・3年度	令和4・5年度
会	長	北里 堅二	北里 堅二	坂崎 浩一	坂崎 浩一	坂崎 浩一
副	会 長	大島 正道 田島 徹朗	田島 徹朗 坂崎 浩一	田島 徹朗 岸本 稔	田島 徹朗 岸本 稔	田島 徹朗 岸本 稔
事	務 局 長	坂崎 浩一	大脇 秀一	大脇 秀一	大脇 秀一	大脇 秀一
教	育 学 術 局 長	田島 徹朗	筒井 宏益	筒井 宏益	筒井 宏益	筒井 宏益
社	会 局 長	光本しのぶ	光本しのぶ	光本しのぶ	光本しのぶ	林 寿恵
地	域 局 長	飯星 雅朗	飯星 雅朗	飯星 雅朗	飯星 雅朗	飯星 雅朗
理	事	大脇 秀一	岸本 稔	大籠 安男	大籠 安男	大籠 安男
		川上 照美	坂田 大介	北里 堅二	北里 堅二	北尾 昌平
		佐藤 亮	佐藤 亮	坂田 大介	坂田 大介	坂田 大介
		三宮 克彦	竹内 久美	佐藤 亮	佐藤 亮	佐藤 亮
		竹内 久美	野津原 豊	四海 公貴	四海 公貴	四海 公貴
		筒井 宏益	林 寿恵	竹内 久美	竹内 久美	竹内 久美
		野津原 豊	前田 英児	野津原 豊	野津原 豊	野津原 豊
		林 寿恵	増田 安至	波多埜克宜	波多埜克宜	波多埜克宜
		前田 英児	松本 泉	林 寿恵	林 寿恵	光本しのぶ
		増田 安至	保田 佳史	増田 安至	増田 安至	保田 佳史
		松本 泉	山口 里美	森 英誌	保田 佳史	山口 里美
		保田 佳史	山口 里美	吉橋謙太郎		
		山口 里美				
監	事	寺川 純晴 楠本 敬二	寺川 純晴 楠本 敬二	楠本 敬二 日野 賢司	楠本 敬二 日野 賢司	日野 賢司 北里 堅二
監	査		森重 康彦			
相	談 役	森重 康彦				
総	務 部 長	山本 博子	山本 博子	山本 博子	山本 博子	山本 博子
庶	務 部 長	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子	福島 芳子
財	務 部 長	久米野美由紀	久米野美由紀	久米野美由紀	久米野美由紀	久米野美由紀
厚	生 部 長	金子 真一	金子 真一	金子 真一	春山 慎司	永津 知直
学	術 部 長	岩田 輝彦	岩田 輝彦	宇野 晃輔	宇野 晃輔	宇野 晃輔
教	育 部 長	前田 英児	前田 英児	大橋 妙子	大橋 妙子	牛嶋 康介
選	挙 管 理 委 員 長	奥村 哲生	奥村 哲生	奥村 哲生	坂井 亮一	坂井 亮一
専	門 領 域 部 長	陣上 修一	陣上 修一	浪本 正晴	浪本 正晴	浪本 正晴
公	益 事 業 推 進 部 長	保田 佳史	野田真依子	宮田 祥希	宮田 祥希	宮田 祥希
保	健 福 祉 部 長	大浦 佳子	大浦 佳子	中園健太郎	中園健太郎	田代 幸大
医	療 保 険 部 長	山下 智弘	山下 智弘	山下 智弘	山下 智弘	山下 智弘
介	護 保 険 部 長	四海 公貴	四海 公貴	内田 康弘	内田 康弘	井柄 涼輔
広	報 宣 伝 部 長	坂田 大介	神吉 真実	松本 美香	今田 強	今田 強
政	策 企 画 室 長	仙頭 城二	仙頭 城二	仙頭 城二	北尾 昌平	緒方 美湖
組	織 体 制 審 議 委 員 長	大籠 安男	大籠 安男	酒見 亮	酒見 亮	酒見 亮
倫	理 委 員 長	森重 康彦	森重 康彦	那須 久史	那須 久史	大橋 妙子
専	門 領 域 部 小 児 班 長	浪本 正晴	浪本 正晴	本田 洋一	本田 洋一	中村 善則
専	門 領 域 部 訪 問 リ ハ 班 長	大久保智明	大久保智明	亀田 由美	亀田 由美	亀田 由美
専	門 領 域 部 呼 吸 ・ 循 環 班 長	大池 貴行	大池 貴行	與座 嘉康	與座 嘉康	坂本 慎一
専	門 領 域 部 糖 尿 病 班 長	溝上 信也	溝上 真也	富岡 勇貴	富岡 勇貴	富岡 勇貴
専	門 領 域 部 ス ポーツ 班 長	西村 英治	西村 英治	木村 淳一	木村 淳一	川中 洋平
専	門 領 域 部 中 枢 神 經 班 長			濱崎 寛臣	岡本 彬	岡本 彬

## 熊本県理学療法士協会 歴代ブロック長一覧

(平成3年度～令和5年度)

	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
熊本市ブロック	森田 秀昭	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳
熊本市東地区				深迫 幹生	前田比呂志	前田比呂志	前田比呂志
熊本市西地区				猿渡 浩年	猿渡 浩年	猿渡 浩年	猿渡 浩年
熊本市中央地区				草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫
熊本市南地区				佐藤 亮	佐藤 亮	佐藤 亮	荒木夕紀子
熊本市北地区				松下 裕之	松下 裕之	松下 裕之	松下 裕之
熊本市菊阿地区				畑中 秀行	畑中 秀行	畑中 秀行	畑中 秀行
県北ブロック	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡
人吉球磨ブロック	稲富 武志						
水俣葦北ブロック	森 優一						
県南ブロック			山内 孝梯	江口 周司	江口 周司	江口 周司	松本 賢治
八代ブロック	松永 暢之	松永 暢之	松永 暢之	浜田 則雄	浜田 則雄	浜田 則雄	笠田 英祐
天草ブロック	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
熊本市ブロック	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	小川 克巳	志賀 義致	山田 晴彦
熊本市東地区	前田比呂志	前田比呂志	前田比呂志	川上 功	川上 功	勝木 進	古川 正応
熊本市西地区	猿渡 浩年	猿渡 浩年	猿渡 浩年	山田 晴彦	山田 晴彦	山田 晴彦	山田 晴彦
熊本市中央地区	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	草野 隆夫	星原 俊政	大久保進也
熊本市南地区	荒木夕紀子	荒木夕紀子	本田 和也	本田 和也	本田 和也	本田 和也	本田 和也
熊本市北地区	松下 裕之	松下 裕之	松下 裕之	上村 哲也	上村 哲也	上村 哲也	上村 哲也
熊本市菊阿地区	畑中 秀行	畑中 秀行	畑中 秀行	畑中 秀行	畑中 秀行	志賀 義致	志賀 義致
県北ブロック	吉田 聡	吉田 聡	吉田 聡	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司
県南ブロック	佐藤 友昭	佐藤 友昭	田口 寛人	田口 寛人	川北 英二	川北 英二	西村 大輔
八代ブロック	笠田 英祐	笠田 英祐	笠田 英祐	楠本 敬二	楠本 敬二	高口 聡	高口 聡
天草ブロック	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	金子 辰幸	園田 寛

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
熊本市ブロック	大久保進也	川上 照美	関原 康司	桑田 稔丈	河津 弘二	河津 弘二	高橋 秀一
熊本市東地区	田中 香織	川上 照美	渡辺 徹	岩田 輝彦	五島 真一	松中 宏憲	川上 功
熊本市西地区	山田 晴彦	山田 晴彦	山田 晴彦	田中 誠	岡本 和久	高橋 秀一	高橋 秀一
熊本市中央地区	大久保進也	青木奈穂子	山本 知昌	本田 正美	児玉 了	瀧下 慎市	園村 和輝
熊本市南地区	本田 和也	本田 和也	関原 康司	関原 康司	上村 幸司	上村 幸司	西岡 高浩
熊本市北地区	上村 哲也	上村 哲也	桑田 稔丈	桑田 稔丈	永田 英二 松崎 智範	中村 智哉	辻本 真也
熊本市菊阿地区	志賀 義致	若宮 賢司	若宮 賢司	若宮 賢司	河津 弘二	河津 弘二	坂本 義孝
県北ブロック	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司	日野 賢司	酒見 亮
県南ブロック	西村 大輔	西村 大輔	西村 大輔	新穂 大輔	新穂 大輔	新穂 大輔	新穂 大輔
八代ブロック	高口 聡	高口 聡	高口 聡	高口 聡	高口 聡	高口 聡	塚島 靖博
天草ブロック	園田 寛	園田 寛	西村 大輔	福田 誠二	福田 誠二	福田 誠二	水田 順司

	平成24年度	平成25年度
熊本市ブロック	興呂木智浩	竹内 久美
熊本市東地区	高山 将史	竹内 久美
熊本市西地区	富田 惇	富田 惇
熊本市中央地区	興呂木智浩	興呂木智浩
熊本市南地区	西岡 高浩	尾崎 博一
熊本市北地区	瀬音 和広	塚本 幸子
熊本市菊阿地区	坂本 義孝	樽山 順子
県北ブロック	菅原 大志	浦上 洋純
県南ブロック	藤井 崇浩	藤井 崇浩
八代ブロック	塚島 靖博	塚島 靖博
天草ブロック	水田 順司	水田 順司

※平成25年度より公益社団法人化となり、平成26年度よりブロック再編あり

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度
熊本市東ブロック	洲上 優司	河口 明広	江上 徹	太田 研典	田尻 美穂	平川 晋也	池田 憲治
熊本市西ブロック	久保 裕治	橋本 直子	堀川 博史	山田 晴彦	戸上 潤哉	佐藤まつよ	山田 稔晃
熊本市中央ブロック	岩崎 大輔	野原 慎二	今田 道生	八河 鶴予	澤村 拓朗	中道 義彦	森山 誘太
熊本市南ブロック	尾崎 博一	鎌田 忠志	里井 宏之	赤司 誠	松本 庄平	木村 州作	郡山 聖
熊本市北ブロック	松本 美香	藤 洋一郎	河野 将光	陣内 真樹	西村 隆文	酒井 亮一	島添 雅宏
菊阿ブロック	樽山 順子	石山 勝也	南 留美子	磯邊 勝彦	廣岡 大門	池田 隆	今村 友則
県北ブロック	田中 久友	多田隈優樹	緒方 祐介	浦上 洋純	本多功二郎	椛島 洋介	緒方 祐介
県南ブロック	藤井 崇浩	永田 光寿	永田 光寿	中川 和喜	中川 和喜	立石 明裕	立石 明裕
八代ブロック	塚島 靖博	塚島 靖博	塚島 靖博	青木 亨	岩田 輝彦	岩田 輝彦	岩田 輝彦
天草ブロック	立川 衛	立川 衛	四方田将昌	四方田将昌	宮木 一也	宮木 一也	山畑 公弘

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
熊本市東ブロック	春野 能子	木村 淳一	宮村 潤一
熊本市西ブロック	佐藤 秀康	上村 和徳	中川 貴寛
熊本市中央ブロック	田中 隆太	池田 真人	植田 陽介
熊本市南ブロック	富岡鴻一郎	横田 航	中西 博紀
熊本市北ブロック	上田恵里奈	高木幸一郎	高野 雅弘
菊阿ブロック	宮崎 勝識	田口 靖洋	下山敬太郎
県北ブロック	中津 学	鍋島健太郎	本多功二郎
県南ブロック	田中 哲	田中 哲	奥 祐俣
八代ブロック	岩田 輝彦	岩田 輝彦	小島順一郎
天草ブロック	山畑 公弘	坂本 拓也	坂本 拓也

## 「熊本県理学療法士協会 設立50周年記念式典・祝賀会」 次 第

### 式 典

- |         |                         |                  |
|---------|-------------------------|------------------|
| 一、開式の辞  | 副会長                     | 岸本 稔             |
| 一、会長挨拶  | 会 長                     | 坂崎 浩一            |
| 一、祝 辞   | 熊本県医師会理事<br>日本理学療法士協会会長 | 中村 英一様<br>齊藤 秀之様 |
| 一、祝電紹介  |                         |                  |
| 一、感謝状贈呈 |                         | 賛助会員様            |
| 一、閉式の辞  | 専務理事                    | 大脇 秀一            |

### 祝賀会

- |          |                                  |        |
|----------|----------------------------------|--------|
| 一、来賓代表挨拶 | 日本理学療法士協会理事<br>熊本県理学療法士協会元会長     | 小川 克巳様 |
|          | 参議院議員                            | 田中 昌史様 |
| 一、乾杯挨拶   | 株式会社ホワシ 会長                       | 帆鷺輝志男様 |
| 一、余 興    | ビデオ上映<br>和太鼓演奏                   | 託東太鼓様  |
| 一、万歳三唱   | 日本理学療法士協会九州ブロック会会長<br>宮崎県理学療法士会長 | 中田 洋輔様 |
| 一、閉会の辞   | 副会長                              | 田島 徹朗  |

出席者

荒木 理恵  
 飯星 雅朗  
 池寄 寛人  
 池田 耕治  
 池田 竜太  
 生駒 成享  
 市川 泰朗  
 今泉久仁子  
 今田 強  
 今屋 将美  
 上野 信吾  
 牛嶋 康介  
 牛島由紀雄  
 宇野 晃輔  
 遠藤 正英  
 大浦 佳子  
 大籠 安男  
 大島 正道  
 大橋 妙子  
 大林 裕明  
 大山 盛樹  
 大脇 秀一  
 緒方 茂  
 緒方 美湖  
 小川 克巳  
 小嶺 衛  
 小亀田 由美  
 椀嶋 洋介  
 川中 洋平  
 岸本 稔  
 北尾 昌平  
 北里 堅二  
 北田 隼人  
 木原 伸一  
 木村 友亮  
 楠本 敬二  
 楠本 敏文

工藤慎太郎  
 桑嶋 政秀  
 神津 玲  
 越川 由紀  
 小森田 宏  
 近藤 直樹  
 齐藤 秀之  
 坂井 亮一  
 坂崎 浩一  
 坂田 大介  
 酒見 亮  
 佐藤 亮  
 澤田 恵子  
 三宮 克彦  
 四海 公貴  
 志垣伸太郎  
 柴田匡久仁  
 末吉恒一郎  
 鋤田 郁美  
 高口 光子  
 高野 定  
 田川 健悟  
 竹内 久美  
 竹屋 元裕  
 田島 徹朗  
 田中 信次  
 田中 貴士  
 田中 昌史  
 田上真之介  
 俵積田 有輝  
 辻 陽子  
 槌田 義美  
 筒井 宏益  
 寺川 純晴  
 土井 篤  
 東條 夏也  
 徳田 章三

中島喜代彦  
 中田 洋輔  
 中村 英一  
 中村 善則  
 長山 幹  
 浪本 正晴  
 西浦 健蔵  
 野原 慎二  
 波多 埜克宜  
 林 寿恵  
 濱田 光佑  
 藤本 洋一  
 古川 繁  
 古澤 良太  
 福島 芳子  
 帆 驚輝 誌男  
 本田 裕志  
 前田 英児  
 前田比呂志  
 増田 安至  
 松本 泉  
 光本しのぶ  
 峰松 一茂  
 宮田 祥希  
 本 尚美  
 森重 康彦  
 森田 秀昭  
 保田 佳史  
 山下 智弘  
 山口 里美  
 山本 博子  
 湯地 忠彦  
 吉橋謙太郎  
 米満 まり

(敬称略・五十音順)



## 熊本県理学療法士協会 設立50周年記念式典写真集



式典司会：理事 林 寿恵



開式の辞：副会長 岸本 稔



会長挨拶：会長 坂崎 浩一



祝辞：熊本県医師会理事 中村 英一様



祝辞：日本理学療法士協会会長 斉藤 秀之様





感謝状贈呈式



感謝状贈呈：(株)徳田義肢製作所様



感謝状贈呈：(株)ホワシ様



感謝状贈呈：(株)タガワプレス様



感謝状贈呈：(株)ミタカ様



感謝状贈呈：(株)熊本託麻義肢様



賛助会員 代表御挨拶：  
(株)徳田義肢製作所 代表取締役 徳田 章三様



閉式の辞：専務理事 大脇 秀一

## 熊本県理学療法士協会 設立50周年祝賀会写真集



祝賀会司会：理事 光本 しのぶ



来賓御挨拶：熊本県理学療法士協会元会長 小川 克巳様



来賓御挨拶：参議院議員 田中 昌史様



乾杯：(株)ホワシ会長 帆鷲 輝誌男様







記念ムービー上映



余興：託東太鼓



余興：託東太鼓









万歳三唱：日本理学療法士協会 九州ブロック会会長 中田 洋輔様



閉会挨拶：副会長 田島 徹朗



お見送り





## 熊本県理学療法士協会 歴代会長一覧

	氏 名	在任期間
初代会長	諸富 国彦	1976～1977
第2代会長	深水 英俊	1977～1978
第3代会長	池辺 正治	1978～1980
第4代会長	高柳 朔司	1980～1988
第5代会長	中野 昭二	1988～1992
第6代会長	小川 克巳	1992～2003
第7代会長	森重 康彦	2003～2009
第8代会長	北里 堅二	2009～2018
第9代会長	坂崎 浩一	2018～現在

## 熊本県理学療法士会設立 50 周年、 ともにあった私の 30 年

第6代会長 小川 克巳



熊本県理学療法士協会、設立 50 周年に際し、心から嬉しく思うと同時にこれまでお支え頂いた賛助会員ほか関係各位に深甚なる感謝を捧げる。

北九州市出身の私が熊本県理学療法士会の活動に参加するようになったのは、熊本総合医療リハビリテーション学院の前身である熊本リハビリテーション学院創設に際して専任講師としての招聘を受けた 1981 年からである。

はじめは学術部副部長として森田秀昭先生の下でお手伝いをはじめ、その翌年には県士会理事として学術部長、次いで副会長、会長、そして監事と、30 年という長きに亘って大層な役職を担わせて頂いた。私の人生は、まさに県士会発展の歴史と歩を一にするものとの実感がある。

私が熊本に赴任した頃は、会員数が 30 名程度で、言わば誰もが顔の見える関係であった。歴史が浅いこともあり、県士会と言っても小規模任意団体で、会の規則もなく、広報誌もない、会員への郵送物ですら封筒を届けるのも賛助会員であった義肢装具会社の方々にお世話になるという、ないない尽くしの状態であった。何もかもが手作りのよちよち歩き、賛助会員の皆さまの無私のご支援無くしては、到底成立し得なかった。感謝以外の言葉はない。

県士会の役員としては実に様々な経験をさせて頂いた。とてもこの誌面では書き切れないが、中でも特に心に残る出来事をいくつか挙げてみたいと思う。

1987 年、日本理学療法学術研修大会（日研）の前身である全国研修会（全研）を熊本で開催することになり、学術部長であった私に準備委員長という大役が…。それからの 2 年余りというもの、熊本までいかにして人を呼ぶか、組織をどう作るか、資金調達は？会場は？人員は？…等々、眠れぬ日々が続いた。準備委員会でも私からすれば先輩や同輩の方々が多く、企画、運営に相当に神経を使った。しかし、開催日が近づくにつれて皆の心がひとつに収束しはじめ、県士会全員がこれほどまとまったのは後にも先にもこの時に尽きるのではないかと思う。結果は大成功を収め、参加者をはじめ協会役員の方々からも多くの賛辞を頂いた。

1992 年、第 6 代会長に就任すると同時に、法人格を取得する事業に着手した。当時は民法上の公益法人であり、いまの届出制とは違って許認可制であった。基礎資産 1 千万円、事務局設置、定款、役員…等々、ひとつひとつのハードルを法人化委員会のメンバーが力を合わせて乗り越え、1994 年に念願の社団法人格が認可された。何度も深夜帰宅をせざるを得なかった 2 年間であったが、職能団体として社会的に認められた瞬間であり、ようやくこれで一人前…そんな感慨もひとしおであった。

1996 年、九州ブロック代表会長に就任した。ヒトもカネもない時代の旧体制を大きく変え、九州の理学療法士が自らの意思と責任の下で運営する組織としての改正を図った。これは当時の事務局長として常に身近にいて支えてくれた現会長の坂崎浩一氏ぐらいしか知らないと思うが、九州 8 県の会長や事務局長等からの強い抵抗を受けながらの作業であった。結果、1 年半でいまの九州ブロックの素地を作り上げることができたと思っている。

2001 年、日本理学療法士協会理事に就任、2 年間は県士会会長との兼務であった。最後の仕事は、県学会の制度化であったかと思う。これも理事会で提案したときには、時期尚早との意見が多く、それを押し切ったの船出であったが、いまや立派に成長を遂げ、やはりあの時に決めて良かったと心密かに嬉しく思っている。

まだまだ書き足りない思いはあるものの、誌面の関係でこれに留める。理学療法士はまさにいま大変革の途上にある。危機と不安が縋い交ぜになって混沌としているいまこそ飛躍の一大好機である。県士会各位の役員、会員一同が一丸となってこの好機をモノにして頂けるよう改めて心より祈念する。時代は県、そして市町村である。

## 設立 50 周年記念に寄せて

第 7 代会長 森重 康彦



熊本県理学療法士会の設立 50 周年を祝するとともに心よりお慶び申し上げます。

私は、1984 年（昭和 59 年）西日本リハビリテーション学院に赴任したことから熊本県理学療法士会とのかかわりが始まりました。当時は任意団体であり 70 人にも満たない会員数だったと記憶しておりますが、今や 2,500 人を超える規模にまで拡大したことはまさに隔世の感があります。さらに事業内容の質と量は格段の進歩を遂げられ賞賛に値すると存じます。特にテレワークの活用は、感染対策と同時に遠隔地からの参加に有効な手段となりました。

会員として各事業に携わり、法人化推進委員会委員、事務局担当理事などを経験した後平成 15 年度から平成 20 年度までの 6 年間社団法人熊本県理学療法士協会長として前任の小川克巳会長から職責を引き継ぎました。しかし、副会長としてかかわっていた士会活動とは全く異なる感触が今でも思い出されます。それは重要事項の案件は理事会や総会にて意を決しておりましたが、会を代表して諸事全般の意思決定の最終決定者となり、会員の命運を決する重責を担った時にはひしひしと孤独感を感じました。歴代会長も同様なお気持ちではなかったのかと拝察します。

振り返りますれば強く意識されることが三つあります。一つ目は事務職員の雇用、二つ目が県内各地へのブロック訪問、三つ目は書籍の刊行です。

一つ目は理事会や委員会、研修会等の開催場所はほとんど熊本リハビリテーション学院か西日本リハビリテーション学院を無償で借用しその事務作業を熊本リハビリテーション学院の講師の方々が担って下さいました。協会の活動費の原資は大部分が会員の会費であり、事業収入は微々たるもので脆弱な予算規模では事務職員の雇用はできない状態でした。そのため会費の値上げを総会で諮り、結果的に専従専任の事務職員を雇用できたときには感慨も一塩でした。

二つ目はブロック訪問です。大部分の事業や会議を熊本市内で実施しておりましたので各地区におられる会員からは是非県内各地のブロックへ理事が訪問し意見交換する場を実現して欲しいとの要請で複数の理事を交えて県内各地に出向いたことによりいろいろな意見や提案を直に吸収することができました。出席くださった会員の方々の笑顔は今でも脳裏をよぎります。

三つ目はわずか半年の準備期間で第 13 回全国地域リハビリテーション研修会を開催しその後に発行した書籍です。私は実行委員長でしたが、理事や委員たちの発案でその内容を研修会誌の発行のみならず講師の方々に研修会での発表内容に加えてこれからの課題や展望まで存分に表現していただきたい旨を要請したところ快諾いただき、京都の大手出版社である雲母書房から『リハビリが生活と出会うとき』と題した書籍を 2001 年 1 月に発刊することができました。当時としては画期的なことであったと記憶しております。

上述の事項以外でも、これからの職能団体として重要さを増すのは政治の分野です。生活全般にかかわり QOL を高めるためには条例をはじめ法整備が必要となります。既に会員の中から県議会議員や町議会議員等が選出されておりますので今後の活躍を期待したいものです。

末筆となりますが、私が鹿児島島の病院で実習をした頃に指導者から「来年のことをするためには土を耕せ、10 年先のことをなすには樹を植えろ、100 年先のことには人を育てろ」との薫陶が思い出されます。公益社団法人熊本県理学療法士協会の更なる発展と会員諸氏の日々の研鑽により地域住民に貢献する人材育成に尽力されることを願ってお祝いのことばといたします。

## 熊本県理学療法士協会 50周年に寄せて

第8代会長 北里 堅二



熊本県理学療法士協会の設立 50 周年に際し、心よりお慶び申し上げます。

私が熊本県理学療法士会に入会したのは昭和 61 年 4 月のことで、理学療法士免許取得後 6 年目のことでした。それから 35 年以上の年月が過ぎました。振り返ってみると、協会の歴史の半分ほどを本会の役員として関わりを持つことが出来ました。その中でも、平成 21 年から 9 年間に渡り熊本県理学療法士協会の 8 代目会長を務めることとなりましたが、その 9 年間で最もうれしかったことは平成 25 年に公益社団法人格を取得することが出来たことです。言うまでもなく、これは私の先代会長の森重康彦先生はじめ多くの皆様が長年にわたり準備頂いた結果であり、感謝の念に堪えません。当初は熊本市が政令指定都市に移行する平成 24 年の取得を目標にしていたのですが、私のリーダーシップの不足で 1 年遅れとなってしまいました。それも今では懐かしい思い出です。

それとは裏腹に、最もつらかった思い出は平成 28 年の熊本地震でした。前震が起きた 4 月 14 日の午後 9 時 26 分は協会の理事会の最中でした。今まで経験したことのない揺れに、これが地震だとすぐには理解できない状況でした。理事会の会場だった熊本総合医療リハビリテーション学院の建物にも被害が確認され、理事会は中止となりました。帰路の途中で職場に寄ってみました。人的被害がなかったので安心して帰宅したところ、次の夜の 16 日午前 1 時 25 分に本震が発生しました。この地震で自分の家も職場も被害を受けましたが、協会の事務局も大きな被害があり、発災直後は事務局機能が停止する事態に陥りました。東日本大震災の教訓を機に組織された JRAT が本格的に機能する最初の機会となり、発災直後から熊本機能病院の三宮克彦先生を中心に、多くの方々にご尽力いただきました。事務局機能の回復には日本理学療法士協会からの応援もいただき、当時の事務局長だった坂崎浩一現会長を中心に、事務局機能の回復と会員の安否確認に全力を注いでいただきました。この経験から、どんな困難も皆で力を合わせることが出来れば乗り越えられないことはないことを学びました。

振り返ってみると、なんとか 9 年間の会長職を務めることが出来たのも、周囲の方々に支えられてのことだったと、今更ながら心から御礼を申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

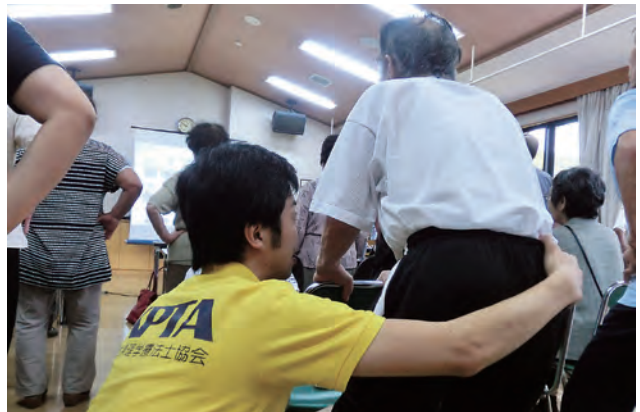
これからの協会活動を考えると、組織率の維持・向上、公益法人としての県民への認知の浸透、行政との連携など課題もありますが、会員一同が一丸となって事に当たれば自ずと道は開けるものと信じています。今後益々の会の発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

## 熊本県理学療法士協会 公益事業写真集

### くまもと『PTあ！(ピタ)』っと健康講座



全国一斉介護予防キャンペーン



熊本城マラソンボランティア



### 県民健康スポーツ教室



### 市民公開講座



## 災害関連に対する対応

### 平成28年熊本地震時の災害リハビリテーション活動のお礼

公益社団法人 熊本県理学療法士協会 元理事  
熊本機能病院

三宮 克彦

#### 【はじめに】

熊本県理学療法士協会の設立50周年、誠におめでとうございます。私は1986年に理学療法士の免許を取得すると同時に本会に入会しました。2010年から2016年まで理事としてお世話になり、奇しくもその任期最終月に熊本地震に遭遇しました。本稿では私の災害リハビリテーション（以下、リハ）活動のよりどころである日本災害リハ支援協会（JRAT：Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team）設立の背景を説明したのち、熊本地震とその後の災害リハ活動を振り返り、お世話になった皆様へのお礼とさせていただきたいと思えます。災害リハ活動の詳細については、私が執筆した他の文章をご参照頂き、これらに記載しなかったことを中心に熊本県理学療法士協会と縁ある皆様と共有したいと思えます。なお、本文は私の手元資料と記憶を基に作成しておりますので多少の齟齬があるかも知れませんが、50周年のお祝いに免じてご容赦くださいますようお願いいたします。

#### 【組織的災害リハビリテーション支援の黎明とJRAT設立について】

2011年3月11日、平成最大の自然災害である東日本大震災が発生し、22,215人の死者・行方不明者が出ました。当時、食料・物資の不足、電気・水道・ガスなどのインフラの復旧が不十分な避難所において、高齢者の生活不活発が問題となりました。リハ関連職種が多く被災地に何らかの支援で訪れていますが、組織的プロボノとして支援するため、「東日本大震災リハ支援関連10団体（リハ10）」が組織され、数か所の福祉避難所への支援が行われました。これが現在のJRATの前身となります。東日本大震災へのリハ10による支援の先陣を切ったのが熊本機能病院の医師・理学療法士・作業療法士の3名と初台リハ病院の看護師・介護福祉士2名の合同リハチームでした。熊本機能病院は、5月の連休中に準備をして、連休明けから7日間（移動・引継ぎ期間を含め10日間）×4チームを派遣しました。

2013年、東日本大震災の教訓の下、JRATが設立され、各県に地域JRATが組織されることになりました。翌2014年熊本JRATが熊本地域リハ支援協議会を中心とした専門職団体等で組織されました。全国組織としてのJRATの事務局が日本理学療法士協会であったことから、熊本県理学療法士協会が熊本JRATの事務局となりました。

#### 【熊本JRAT事務局長に？地震発生（前震）！】

東日本大震災へのリハ10の支援で、熊本機能病院が支援に参画し、私その後方支援を行っていたことから、理事役割分担の中で災害対策の担当を命じられていました。熊本JRAT設立の影の立役者であり、当時、熊本リハビリテーション病院の副院長であられた、故 山鹿眞紀夫先生とのご縁もあつたことから、私が熊本JRATの事務局長を拝命することになりました。昭和生まれの私には、「NO」の選択肢はありませんでした。そして、大きな災害が起こらないことを願いました。

平成28年は、熊本県理学療法士協会の役員選挙の年で、私は理事として2期の任期を終る予定でした。熊本地震は、任期終了直前、4月14日午後9時25分、突然の大きな揺れで発生しました。その時、熊本県理学療法士協会の理事のほとんどは、熊本総合医療リハビリテーション学院の2階講堂に集合し、理事会の真っ最中でした。7時からの会議、開始後2時間が過ぎていましたが、いつものように予定案件が多くあり、まだまだ長く時間を要す状況でした。その日私は最前列に座っていました。ほんの一瞬、「んっ？地震か？」と軽い揺れがあつたように思います。その後、大きな揺れが数分続き、椅子に座ったまま、机にしがみついて耐えました。壁と天井がケーキ箱のように歪む様子を見て、

建物倒壊の恐怖を覚えました。大きな丸い掛け時計が床に落ちて、ガラスが飛散しました。幸い停電はありませんでした。目の前に当時会長の北里堅二先生が議長としておられ、その両脇に田島副会長、坂崎事務局長（現会長）がおられ、必死の形相でにらめっこになりました。お互いに命の危険を感じる必死の形相であったことと思います。私は、熊本総合医療リハビリテーション学院と職場の中間点の自宅に立ち寄り、家族の無事を確認し、震度5強以上で自動参集がかかった職場に向かいました。そして夜中まで集まった職員全員で入院患者の安全確保のため最善を尽くしました。

### 【熊本地震時の災害リハ活動を通して】

4月15日、今となっては前震と言われる大地震の翌日、熊本リハビリテーション病院の山鹿先生、理学療法士の植田義美先生と益城町へ向かい、JRATとして挨拶をするとともに、災害リハ活動への避難所のニーズを確認しました。発災直後、その段階ではっきりとしたニーズはありませんでしたが、上益城を管轄するリハビリテーションセンター熊本回生会病院が地域リハ広域支援センターであることから、同院がニーズの把握と支援差配の役割を担い、熊本JRAT協力施設で避難所支援を行うことまで調整ができました。ご承知のように、翌4月16日未明の本震により、県内は大混乱になりました。熊本市周辺の多くのリハ中核病院が被災し、15日の準備は振り出しに戻りました。私も自宅も職場も被災しましたが、前日からの流れがありその立場を離れることができませんでした。熊本JRATの世話人の先生方のご示唆で、JRATの全国からの支援を要請し、県庁の医療救護調整本部（現保健医療福祉調整本部）に入り、熊本県医師会の先生方と情報共有しながら支援を差配することとなりました。支援差配の経験少ない私に対して、JRAT代表の栗原正紀先生や副代表の近藤国嗣先生、当時日本理学療法士協会副会長（現会長）の斉藤秀之先生が遠隔から支えてくださいました。近藤副代表の「私たちはあなたを孤立させません！」の言葉にどれだけ救われたことでしょう。

私の県庁調整本部内での活動は、当時本会の会長であった北里堅二先生、熊本県OT士会長の内田正剛先生（当時）、熊本県ST士会長の山本恵仙先生（当時）はじめ、多くのリハ専門職の皆様にご支援いただきました。県やJMAT（日本医師会災害医療チーム）との交渉・調整は山鹿温泉リハビリテーション病院の院長である田代桂一先生が担ってくださいました。

熊本地震は4月14日～15日の間に震度7が2回、震度6弱以上が4回、その後の2週間で震度4以上の地震が130回ほど続きました。避難所と避難者が最大となったのは17日朝で、855ヵ所、183,882人と集計されています。車中泊や親戚宅等へ避難された人を加えると、もっと多くの人が避難生活をしていたと推測できます。

熊本地震に対するJRATの活動者数は、JRATとして活動した7月16日までの間に、JRAT東京本部ではロジ要員のべ346人、その差配により避難所で活動して下さったのは、554隊1774人、熊本の調整本部と活動本部を支えて下さったロジ要員は765人にのぼります。県内外を問わずご支援くださった皆様に心から感謝いたします。また、被災建屋にも関わらず当初から活動本部として多くの部屋を提供して下さった、熊本機能病院会長の米満弘之先生、5月29日以降、後半の現地派遣の拠点として、場所と事務的支援までも提供して下さった、熊本リハビリテーション病院の古閑博明先生に深謝いたします。

熊本地震に対するJRATの活動は、発災後3カ月で終了しました。その後、約2年間続く応急仮設住宅への支援は、熊本県復興リハセンターが担いました。熊本県復興リハセンターは熊本県医師会ほか21団体による熊本地域リハ支援協議会と熊本県が共同で設立したスキームで、登録した施設が活動しています。この立ち上げには、熊本県医師会の当時地域リハ担当理事の林邦夫先生が中心となってご尽力くださいました。

熊本地震に関連した災害リハ活動での我々の教訓は、現在も理事でご活躍中の佐藤亮先生が、見事に災害リハ支援に関する教材とされ、後進の指導に尽力してくださっています。その他、ここに紹介しきれない多くの皆様に支えられ、今に至っている事に心から感謝申し上げます。



## 熊本県災害リハビリテーション推進協議会（熊本JRAT）の活動

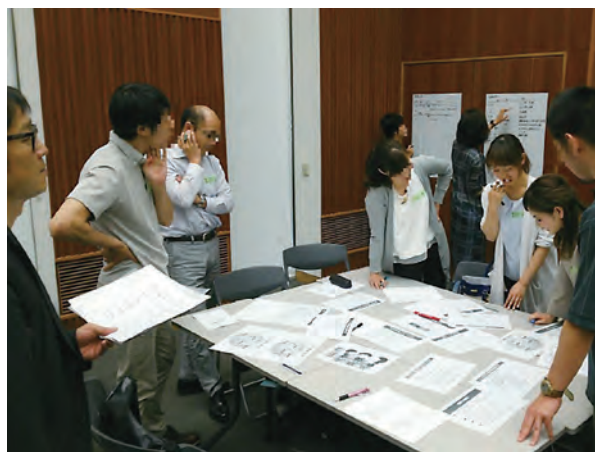
公益社団法人 熊本県理学療法士協会 理事 佐藤 亮  
熊本県災害リハビリテーション推進協議会（熊本JRAT）事務局 次長

2016年熊本地震において日本災害リハビリテーション支援協会（Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team：以下、JRAT）は設立後初の大規模災害リハビリテーション支援活動を約3ヶ月展開しました。熊本県災害リハビリテーション推進協議会（熊本JRAT）事務局を担当している熊本県理学療法士協会（以下、当協会）は、地震により機能不全に陥っていましたが、被災県として地域JRAT（都道府県JRATの総称）を受け入れる熊本JRAT災害対策本部運営を行いました。当協会においては、実践的な訓練も行っておらず全てが初めての経験でしたので多くの混乱が生じ、ごく限られた人員で本部運営をせざるを得ない状況に陥りました。そのため被災者でありながら本部要員となった会員にとっては計り知れない精神的・身体的な負担となりました。

「受援」の重要性を再認識した私達はこの経験をいかし、2017年に「大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営ゲーム（Disaster Rehabilitation assistance team Honbu Unei Game：以下、REHUG）」というカードを用いたゲーム形式で大規模災害時の本部運営に関するシミュレーションができる教育教材を開発しました。2018年には当協会の災害リハビリテーション教材として商標原簿に登録しています（商標登録第6091671号）。

現在約20の道府県の災害リハビリテーション研修会で使用され、2022年度にJRATが整備したJRATロジスティクススタッフ（L-スタッフ）の資格取得の要件にも採用されています。

2020年7月、熊本県南部において広域同時多発水害（令和2年7月豪雨）が発生し、熊本JRATは約2カ月活動しました。熊本JRAT担当課である熊本県認知症対策・地域ケア推進課（以下、認地課）や公益社団法人熊本県医師会との熊本地域リハビリテーション支援協議会等における平時の連携が活かされたこともあり、発災直後から日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Association Team：JMAT）や認地課と情報共有を図り、現地視察、本部立ち上げ等の初動を円滑に行うことができました。





しかし、この水害におけるJRAT活動は新型コロナウイルス感染症流行下における全国初の避難所支援であったため、支援活動への影響を踏まえて本部を運営する必要がありました。被災地域は、八代地域、芦北地域、人吉・球磨地域と熊本県南広域に渡っていましたが、熊本JRAT協力施設からの派遣者数の減少に対応すべく、避難所・避難者数が多く地域リハビリテーション資源とニーズの不均衡が著しい人吉・球磨地域に支援チームを派遣することを決定しました。生活不活発病対策のための集団体操においては、人吉・球磨地域保健医療調整本部や感染管理認定看護師の方々と相談しながら感染対策マニュアルを作成しました。感染対策が功を奏したこともあり、活動中に新型コロナウイルス感染者は出ませんでした。活動終盤には、建設型応急住宅の初期改修（災害救助法による住宅改修）評価への協力も行いました。

東日本大震災において、被災3県の要介護認定率が上昇しました。そこで、熊本県内で発生した2つの災害において、熊本県では熊本JRATの活動を引継ぐ組織として熊本県復興リハビリテーションセンターを設置しました。建設型応急住宅で生活する要配慮者の方々が、生活不活発とならないよう新しいコミュニティ作りのお手伝いや仮設団地の集会所において活動や参加の機会を提供しました。他の支援団体の活動もあり、被災後の熊本県内の要介護認定率の上昇を防ぐことが出来ました。

熊本JRATの活動に直接的または間接的にご支援いただきました全ての皆様に、この場をお借りしまして感謝申し上げます。



## 熊本県理学療法士協会 学会誌の変遷



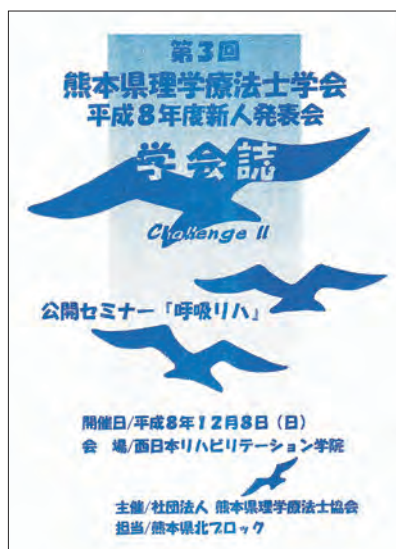
平成6年度 第1回  
熊本市ブロック

昭和46年に結成された当会ですが、年号が平成となり、会員数の増加、特に若手会員の増加が著明でした。その中で、独自の学術的発表ならびに討論の場としての学会を求める声が次第に高まって参りました。

当会が社団法人化された平成6年度に、第1回熊本県理学療法士学会が開催されました。学会の運営は県下のブロックが持ち回りで担当し、表紙などのデザインも独自性が出されていることが分かるかと思います。



平成7年度 第2回  
熊本市ブロック(西・中央地区)



平成8年度 第3回  
熊本県北ブロック



平成10年度 第4回  
熊本市ブロック(東・南地区)



平成11年度 第5回  
八代ブロック



平成12年度 第6回  
熊本市ブロック(北・菊阿地区)



平成13年度 第7回  
天草ブロック



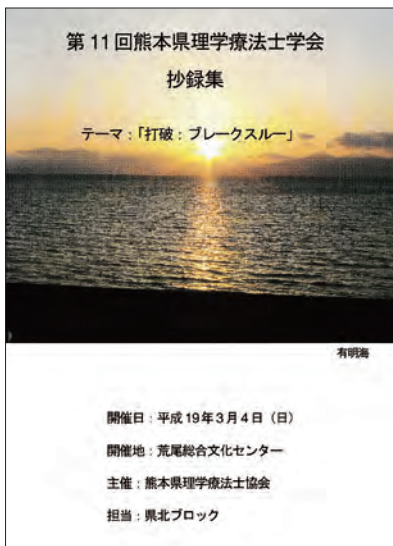
平成14年度 第8回  
県南ブロック



平成15年度 第9回  
熊本市ブロック (中央地区)



平成16年度 第10回  
熊本市ブロック (西地区)



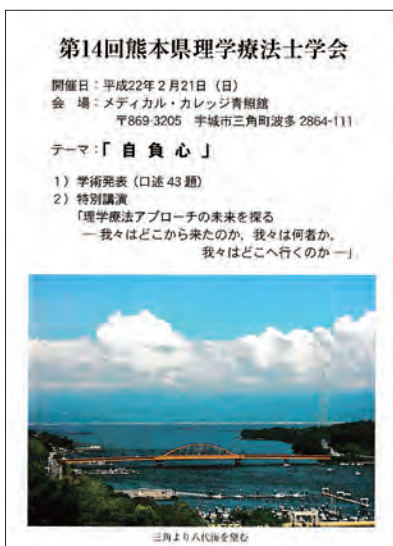
平成18年度 第11回  
県北ブロック



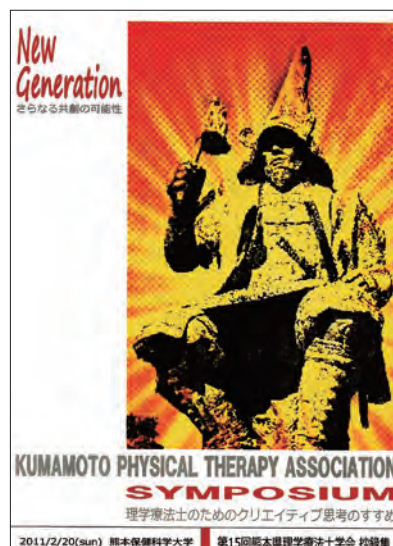
平成19年度 第12回  
熊本市ブロック (東地区)



平成20年度 第13回  
熊本市ブロック (南地区)



平成21年度 第14回  
八代ブロック



平成22年度 第15回  
熊本市ブロック (菊阿地区)



平成23年度 第16回  
天草ブロック



平成24年度 第17回  
熊本市ブロック(北地区)



平成26年度 第18回  
県南ブロック



平成27年度 第19回  
熊本市中央ブロック



平成28年度 第20回  
熊本市西ブロック



平成29年度 第21回  
県北ブロック



平成30年度 第22回  
熊本市東ブロック



令和元年度 第23回  
熊本市南ブロック



令和3年度 第24回  
八代ブロック



令和4年度 第25回  
菊阿ブロック

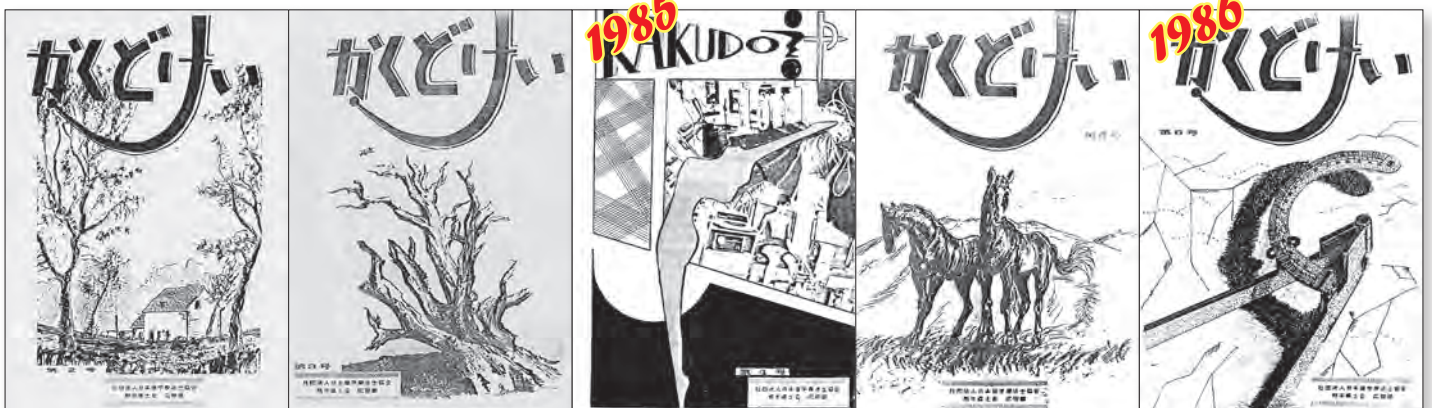
## 熊本県理学療法士協会 広報誌「かくどけい」の変遷



昭和59年（1984年）7月15日創刊号発刊  
社団法人化前の「旧かくどけい」です

### 全てはここから始まった...

- 熊本県内の理学療法士に対する情報提供ならびに会員相互の交流を目的に、昭和59年（1984年）に創刊されました。
- 私たち理学療法士にとって、最も身近な道具で且つ親しみのある「かくどけい」を広報誌の名前に致しました。
- 創刊当初はコピー版、ホチキス止めでのとじ込みで、当時の会員数を反映し、50～60部程度を発行しました。
- 養成校の新卒者就職先、新人紹介、会員の異動状況や、「私の職場紹介」「求む同志！」（共通の趣味を持つ方をマッチングする企画）といった会員相互の交流を図る記事が掲載されました。
- 中には「特集：2年目に思う」（臨床2～3年目の会員がいま何を思い、何に思い悩んでいるのか？を取材する企画）や、「特別企画：身障スポーツ紹介」など、様々なものがありました。



かくどけいロゴのレアな英語表記！





海外の風景イラスト  
シリーズ



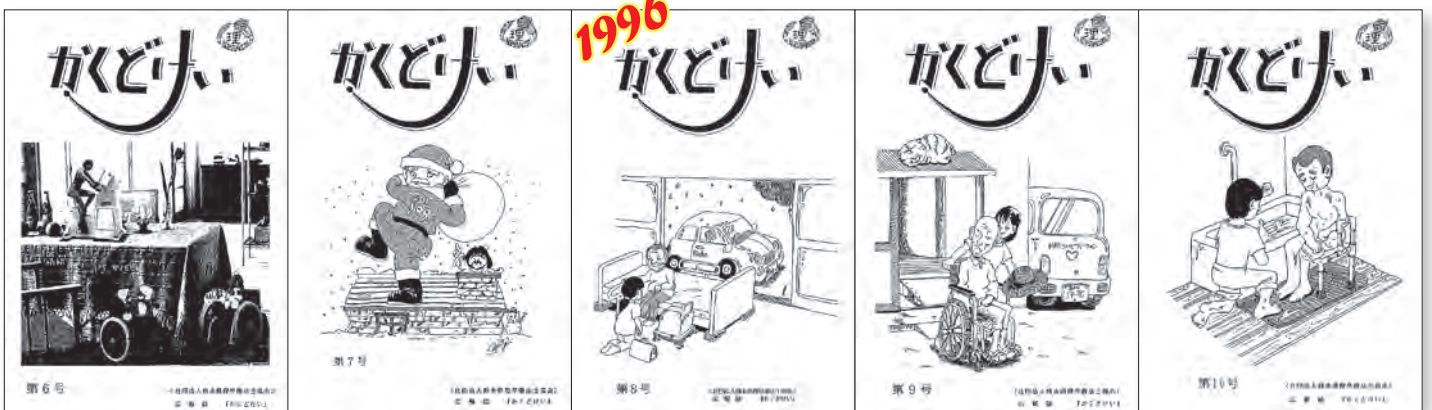


1993 今上天皇ご成婚



社団法人化後の  
「新かくどけい」スタート

1995 阪神淡路大震災



1996 野茂英雄  
トルネード旋風







1998 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催

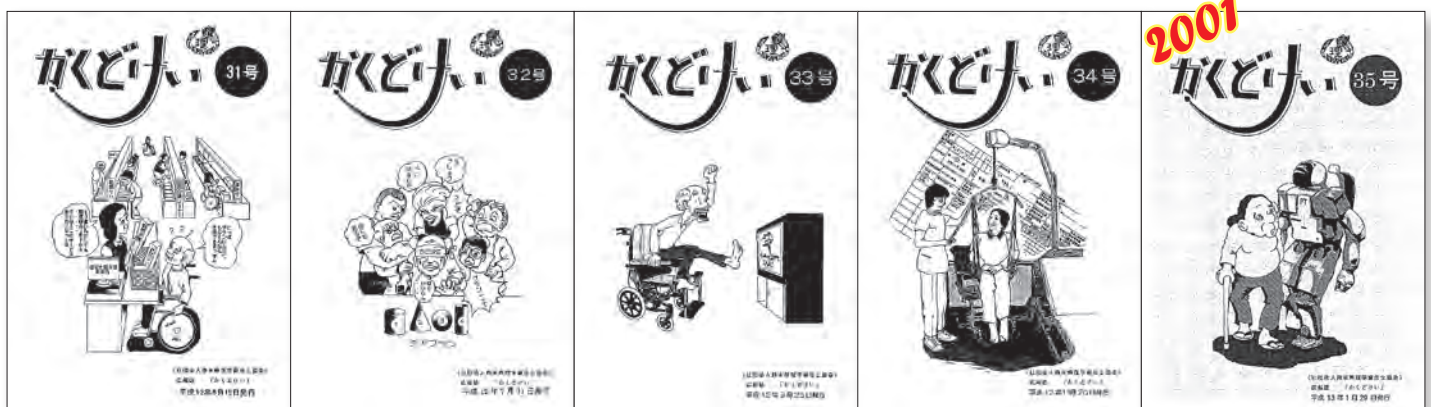


1998 マグワイア 70号達成



1999 スターウォーズエピソード1公開

2000 介護保険及び回復期リハビリテーション病棟スタート



シドニーオリンピック開催



2001 ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律制定  
2001 小泉政権誕生 アメリカ同時多発テロ発生



2002 日韓サッカーワールドカップ開催



2003 日本理学療法士連盟設立

2003 SARSウイルス流行





アテネオリンピック開催

イチロー メジャー  
最多安打樹立

平成17年 介護保険改正  
予防重視型システムへの転換



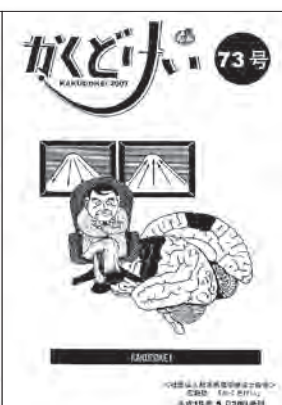
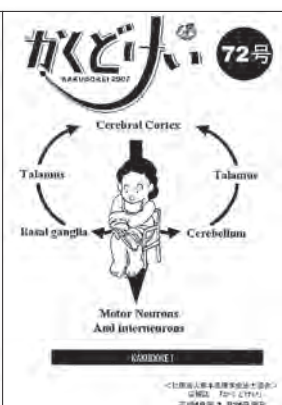
2005 実習地確保の激化

2006 介護保険制度改正  
(介護予防スタート)



トリノ冬季オリンピック・パラリンピック開催

第1回WBC 日本優勝



診療報酬改定 疾患別リハビリテーション料が新たに設定



2009 皆既日食  
日本各地で観察

2008 北京オリンピック・パラリンピック開催



第2回WBC 日本連覇



2008 後期高齢者  
医療制度が設定

2010 マイケルジャクソン  
「This is It」公開





2011 九州新幹線開通



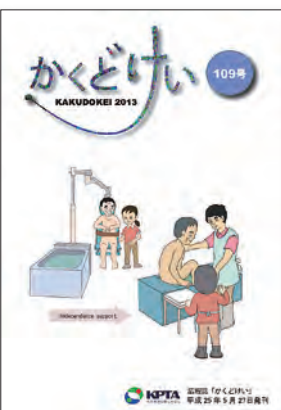
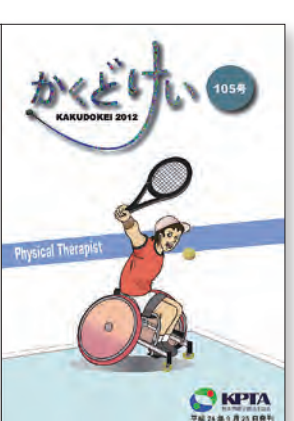
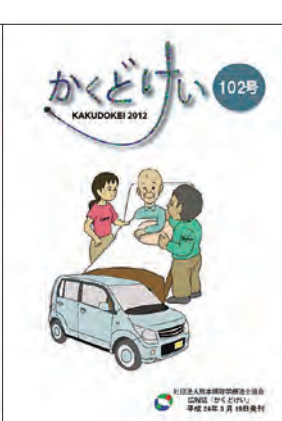
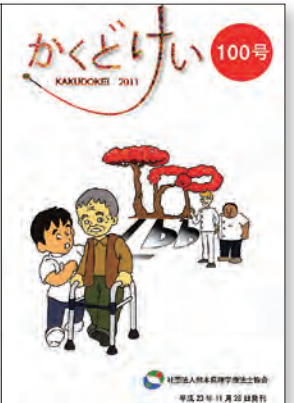
東日本大震災発生



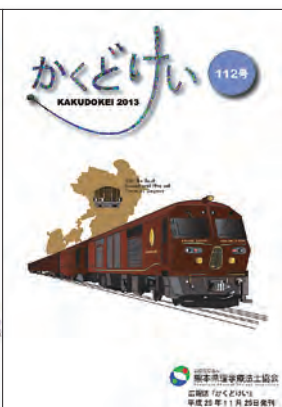
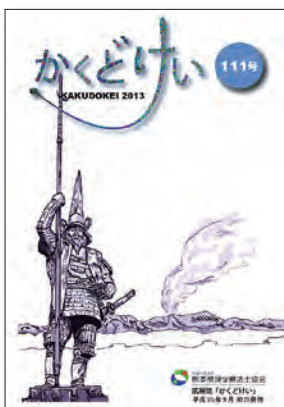
ドイツ女子W杯  
なでしこジャパン優勝



民主党政権誕生



「2025年問題」が顕在化



豪華寝台列車「ななつ星  
in 九州」運航開始



ソチオリンピック・  
パラリンピック開催



イラスト表紙の最終号



151号分の表紙を執筆された  
野尻 晋一 先生

「ちょっと今日は広報部の仕事を手伝って」と先輩に声をかけられ熊大に行ったのが始まりでした。気が付けば、昭和59年の創刊号から平成26年の最終号114号まで計151枚の表紙を描いていました。なぜか仕事に追われている時に限って表紙の締め切りがやってきます。途中何度もくじけそうになりましたが、「この前の表紙良かったよ」「面白かった」と会員から声をかけられたことが励みとなり、役割を全うできました。会員の皆様に感謝いたします。



## そして、かくどけいは新たなステージへ

- 一般社団法人から、公益社団法人へと生まれ変わり、広報の対象が一般市民となりました。
- 巻頭特集では、一般の方々に対し、健康に関する情報をわかりやすく掲載しています。
- 理学療法や理学療法士の業務内容をご紹介できるよう毎回3,000部発行し、各市町村のみならず、郵便局や県内各地のショッピングモールに設置しています。



特集「THE 腰痛!」



特集「THE 糖尿病!」



特集「THE 膝痛!」



特集「THE 肩こり!」



特集「生活不活発病」



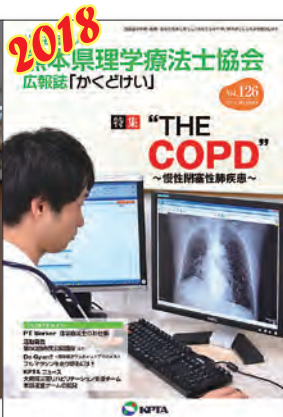
特集「THE 脳卒中」



特集「THE 腰痛2」



特集「THE メタボ」



特集「THE COPD」



特集「理学療法士」



特集「THE 介護予防」



特集「THE 介助」



特集「THE 転倒予防」



特集「THE 五十肩！」



特集「THE 膝痛！」



特集「THE 骨粗鬆症！」



特集「コロナに負けない  
身体づくり」



特集「THE 脳卒中」



特集「THE 腰痛3」



特集「ロコモティブ  
シンドローム」



特集「変形性膝関節症」



特集「コロナ禍における  
生活不活発病予防」



特集「THE 糖尿病2」



特集「アフターコロナの運動」



特集「歩き方改善」

## 各部局紹介



### 事務局 局長 大脇 秀一

事務局は、会員の皆様の管理から事業・財務管理、総務・庶務・財務業務など幅広く対応する部署となっています。当会の活動を健全で円滑に運営するために、専属の事務職員（理学療法士ではない）を2名配置して、会員の皆様のお役に立てるように日々努めています。

昨今では、様々な地域からの派遣依頼や各種団体からの後援依頼など、かなり増加傾向となっています。これもひとえに会員の皆様の地域や各団体に対する取り組みや連携の賜物と感じております。

当会では理学療法士協会の会館設立を検討しています。会館がどのような使用用途になるかは分かりませんが、移転や設立などの機会があった際は、更なる事務局業務の改善に努めて参りたいと思います。



### 総務部 部長 山本 博子

協会設立50周年おめでとうございます。平成6年に事務局が熊本リハビリテーション学院（現：熊本総合医療リハビリテーション学院）に移り、総務部長の任につかせていただきました。主な業務は書類の管理や会議の準備です。当初は其中でも大変だったのが議事録の作成でした。会長をはじめ理事の方々の白熱した議論を聞き漏らさないように必死で書きまくっていたことを思い出します。それと同時に、協会の発展を真剣に議論する諸先輩方の姿は忘れられません。先輩方の働きにより、今の協会が築かれています。この役割を通して、熊本県における理学療法士の地位は高まり、安心して仕事ができる環境となっていることを知ることができました。この価値を次世代にしっかりと伝え、協会がさらに盛り上がっていくことを願っています。



### 庶務部 部長 福島 芳子

設立50周年、誠におめでとうございます。庶務部は、会員の入退会・異動等や所属施設の情報管理など個人の登録データ管理が主な業務となります。前事務局から引き継いだ時には、県士会会員も320名程でしたのでお名前と所属もなんとなくわかっていました。現在は3071名（含休会会員）と大きな組織になりうれしい限りです。また個人の登録データ管理ということから生涯学習におけるポイント管理業務も加わり、一人で始まった庶務部も生涯学習担当係を迎えて現在は3人で活動しています。2022年度より新生涯学習制度が始まり、前期・後期研修や登録理学療法士、認定・専門理学療法士取得について、会員の皆様の意識向上も加わり少しずつ軌道に乗ってきたように感じます。理学療法士の活動領域も広がる中、多くの会員の方々の幅広いご活躍を祈念いたします。

#### 庶務部

役職	部員氏名	施設名
部長	福島 芳子	熊本総合医療リハビリテーション学院
副部長 生涯学習係係長	當利 賢一	介護老人保健施設 清雅苑
生涯学習係	楠元 陽士	熊本機能病院





## 厚生部 部長 永津 知直

厚生部では、年度始めとして「新卒者研修会」を開催しています。この事業は、新卒や既卒を問わず当協会に入会を予定している理学療法士の方を対象に、「熊本県理学療法士協会」の活動の理解を深めて頂くとともに入会の案内をしています。年度末には「賛助会員懇談会」を開催し、賛助会員10社と意見交換を行い、協会へのご協力をお願いしています。年間を通じて行う事業では、「会員福利厚生」に関する事業として、会員の皆様が安心して協会活動に参加できるように団体保険への加入、診療報酬・介護報酬に関する会員への資料提供を行っています。また、結婚・出産・育児・介護などの理由で休職されている会員の皆様を対象に「復職支援事業」も行っています。今後も、会員の皆様にとって有益な事業の運営ができるように努めて参ります。

### 厚生部

役 職	氏 名	所 属
部 長	永津 知直	熊本セントラル病院
会 計	長尾 俊宏	谷田病院
理 事	佐藤 亮	山鹿温泉リハビリテーション病院
部 員	岩村 泰年	熊本セントラル病院
	永島 奈穂	山鹿温泉リハビリテーション病院
	福元 隼人	熊本託麻台リハビリテーション病院
	前田 達矢	山鹿温泉リハビリテーション病院



## 教育学術局 局長 筒井 宏益

教育学術局は、学術部、教育部、専門領域部で構成されています。最新の知識・技術の習得、教育の質向上、良質な理学療法士の提供を主軸として、3部門が協力して理学療法の普及向上を図ります。また、理学療法士の学術および技能の向上、新たな教育システムの構築を目指します。これにより、会員の方々の学術的研鑽の支援はもちろん、熊本県民の保健、医療および福祉の発展に寄与していきます。



## 学術部 部長 宇野 晃輔

学術部は、①学術研修班、②研究助成班、③学術資料班の3本柱で活動しております。活動としましては、①全国の著名な先生方にご講演を依頼し、年4～5回、対面での実技研修またはオンライン研修の企画・運営。②会員理学療法士に対し、申請のあった研究に対し助成事業。③理学療法や医療・健康に関する専門書や一般書の選定、購入、貸出事業、等を行っております。どの活動も県内の理学療法士を中心に医療関連職種の方々の知識・技術の向上、学術活動の促進に寄与し、県民の方々により良質な医療を提供する事を目的とし活動しております。

### 学術部

役職	氏名	所属
部長	宇野 晃輔	宇城総合病院
部員	石原 靖之	九州中央リハビリテーション学院
	今屋 将美	熊本機能病院
	川上 涉	Let's リハ! In the mall サンピアン店
	槻木 智美	人吉リハビリテーション病院
	工藤あかり	熊本セントラル病院
	下村 千尋	宇城総合病院
	杉谷英太郎	熊本機能病院
	竹内 睦雄	熊本機能病院
	田中 倅生	谷田病院
	富田 惇	岩本整形外科
	新名 祐介	にしくまもと病院
	野口 敦史	くまもと成城病院
	橋本 翔	済生会みすみ病院
	林田 拓哉	宇城総合病院
	平田 祐志	宇城総合病院
	福田 拓也	西日本病院
	藤田 拓也	桜十字八代リハビリテーション病院
	牧野 颯馬	桜十字八代リハビリテーション病院
	松村 康平	済生会みすみ病院
	宮原 真衣	朝日野総合病院
山本 貴大	朝日野総合病院	
吉本 健人	熊本脳神経外科病院	



## 教育部 部長 牛島 康介

教育部は平成20年より発足し、15年目を迎えました。当初より①卒後教育、②臨床実習教育、③管理・運営教育の3本柱で、会員の生涯学習のサポートを行っております。

**卒後教育** 新たなシステムとなった生涯学習制度における登録理学療法士の認知度向上と、受講しやすい環境づくりを目指しています。

**臨床実習教育** 臨床実習指導者に対して、フォローアップ研修会を開催し、講習会参加後に生じた新たな悩みを共有し、指導者同士が互いにディスカッションできる機会を設けています。

**管理・運営教育** 研修会を開催し、養成校では学んでこなかった管理という学問を学んでもらっています。

これからも、理学療法学生のための魅力ある実習や、新人理学療法士の意欲向上、管理者へのバックアップ等を目指し、様々な企画を提案していきたいと思っております。

### 教育部

役職	氏名	所属
部長	牛島 康介	十善病院
卒後教育班 班長	岩下 功平	熊本機能病院
臨床実習教育班 班長	長福 武志	熊本セントラル病院
管理運営教育班 班長	山崎晃一郎	くまもと成城病院
理事	坂田 大介	熊本機能病院
理事	波多埜克宜	にしくまもと病院



## 卒後教育班 班長 岩下 功平

医学的な基礎知識、立ち振る舞いを若手の理学療法士が取得する目的で当班は発足しました。2022年度から開始された新生涯学習制度について会員へ周知する働きかけを行っています。特に登録理学療法士の取得のため、前期研修である初期研修・理学療法の基礎や専門性・実地研修、また後期研修では臨床に即した座学・症例検討・最近の知見までの研修項目の履修イメージの理解を深める取り組みを行っています。自身のスキルアップのため登録理学療法士を目指してみませんか!?

### 卒後教育班

役職	氏名	所属
班長	岩下 功平	熊本機能病院
副班長	杉本 洋一	熊本セントラル病院
副班長	俵積田有輝	にしくまもと病院
班員	岩坂 光彦	熊本リハビリテーション病院
	緒方このみ	熊本セントラル病院
	草原 麻衣	にしくまもと病院
	久保 皇之	熊本機能病院
	竹川 宜孝	朝日野総合病院
	永津 知直	熊本セントラル病院
	野崎 大智	御幸病院
	松尾 鉄馬	桜十字病院
	毛利 博隆	熊本託麻台リハビリテーション病院
	森 義貴	熊本機能病院
	森田佳菜子	御幸病院
	山崎 慎介	熊本リハビリテーション病院

	山本 智	にしくまもと病院
	吉永 直樹	熊本市立熊本市市民病院



### 臨床実習教育班 班長 長福 武志

これまで、「熊本県版スーパーバイザーの手引き（2011年9月）」と、さらにバージョンアップした「熊本県版臨床実習指導者の手引きVol.2（2018年3月）」を発行し、臨床実習教育の普及啓発活動に取り組んできました。また、2018年10月に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正に合わせ、診療参加型臨床実習の基礎知識や進め方などの内容で臨床実習教育研修会の開催も行っています。これから、臨床実習指導者講習会後のフォローアップ研修会として、ブラッシュアップした内容で臨床実習指導者の育成に取り組んでいきます。

### 臨床実習教育班

役職	氏名	所属
班長	長福 武志	熊本セントラル病院
副班長	坂本 慎一	訪問看護ステーション おれんじ
班員	石原 靖之	九州中央リハビリテーション学院
	大浦 佳子	九州看護福祉大学
	緒方あづさ	にしくまもと病院
	木村 友亮	熊本労災病院
	草原 麻衣	にしくまもと病院
	坂本 勝哉	(株)グローバル介護サービス こども療育研究室 (Lulu)
	高橋 渚	にしくまもと病院
	野口 大助	熊本機能病院
	橋本 隆哉	熊本リハビリテーション病院
	日渡 佳澄	にしくまもと病院
	福島 芳子	熊本総合医療リハビリテーション学院
	松下 大輝	熊本セントラル病院
	武藤 大樹	熊本機能病院
	山崎晃一郎	くまもと成城病院
	山本 英夫	熊本駅前看護リハビリテーション学院
	山本 良平	熊本保健科学大学
	吉田 勇一	九州看護福祉大学



### 管理・運営教育班 班長 山崎 晃一郎

管理・運営教育班では、毎年「管理者教育研修会」の企画・運営を行い、管理者及び時期管理者向けの人材育成や組織運営に関する研修会を開催しています。学校では学ぶ事のない「管理」という分野で会員の皆様の研鑽を支援していけるよう今後も魅力的な研修会を開催していきたいと考えております。

### 管理・運営教育班

役職	氏名	所属
班長	山崎晃一郎	くまもと成城病院
副班長	中村 智明	中村経営士事務所
	京極 大樹	デイサービスセンター わらべ
	下本 昂平	くまもと成仁病院
	田中 康則	熊本機能病院
	中田真悠子	成尾整形外科病院
	松本 拓哉	成尾整形外科病院



### 専門領域部 部長 浪本 正晴

専門領域部は、県協会の理学療法士としての専門分野の“質の向上”を目指した活動をサポートすること、そして、理学療法士としての知識・技術を生かし熊本県民へ地域貢献するための部署として活動しています。主な活動は、専門・認定理学療法士育成を目的とした学術研修会の企画・運営と学術研修会の講師育成、その他、専門領域ごとの特性にかかわる、実働・提言を活かした地域貢献を含んだ活動を行っています。

この部署には、呼吸・循環班、小児班、スポーツ班、中枢神経班、糖尿病班、訪問リハ班の6つの専門領域の班があり、各分野で臨床にて活動している県協会員で班を構成しています。上記の活動を目的に、県協会員及び医療・福祉関連職種向けの活動や、医療・福祉の関連団体と連携した県民向けの活動を行っています。

### 専門領域部

役職	氏名	所属
部長	浪本 正晴	熊本託麻台リハビリテーション病院
呼吸循環班長	坂本 慎一	訪問看護ステーション おれんじ
小児班長	中村 善則	熊本託麻台リハビリテーション病院
スポーツ班長	川中 洋平	成尾整形外科病院
中枢神経班長	岡本 彬	にしくまもと病院
糖尿病班長	富岡 勇貴	熊本リハビリテーション病院
訪問リハ班長	亀田 由美	熊本セントラル病院



### 専門領域部呼吸循環班 班長 坂本 慎一

呼吸循環班は、年に3回の研修会の開催を通して会員の皆様の研鑽の一助となればという思いで活動しています。年3回の研修会の中でも毎年6月に開催しています「呼吸循環系理学療法セミナー」は今年18回を開催し、ロングセラー研修会となっています。今では呼吸療法認定士の認定更新のための研修会にも認められ、理学療法士だけでなく看護師や言語聴覚士など多職種の参加もあり公益法人としての役割をはたせているのではないのでしょうか。

また、「循環系理学療法セミナー」はまだ3回と新しい研修会ですが、昨今の循環器疾患の増加にあたり初学者向けの内容として開催しています。

今後も、内部障害患者は増えることが予想されています。多くの理学療法士が国民の健康のために活躍できるよう微力ではありますが協力していけるよう活動していきます。

### 専門領域部呼吸循環班

役職	氏名	所属
班長	坂本 慎一	訪問看護ステーション おれんじ

副班長	石川 陽介	済生会熊本病院
会 計	藤田美紀男	江南病院
班 員	大池 貴行	九州看護福祉大学
	緒方 光	訪問看護ステーション レシーブ
	川俣 幹雄	九州看護福祉大学
	境 孔平	熊本中央病院
	寺島 裕雅	済生会熊本病院
	仁田脇宣男	済生会熊本病院
	備瀬 隆広	熊本リハビリテーション病院
	日高 淳	済生会熊本病院
	前本 英樹	熊本中央病院
	宮川 誉浩	熊本赤十字病院
	森下 一樹	済生会熊本病院
	森下 志子	九州看護福祉大学
	山下 大翔	江南病院
	與座 嘉康	熊本保健科学大学



### 専門領域部小児班 班長 中村 善則

専門領域部小児班では、小児リハビリテーション分野における著名な講師を日本各地よりお招きし、最新のトピックスを学び、知識のアップデートを図っているように年に2回の研修会を企画・運営しています。さらに、県内の各圏域で小児に携わっている理学療法士の方々に声をかけ、情報共有会議やスキルアップ研修会を実施しています。他にも小児に関わる事業所（児童発達支援や放課後等デイサービスなど）への支援を行い、地域との連携を図っております。これからも会員の方に積極的に参加して頂けるよう、より魅力ある研修会を企画し、会員が地域で貢献できるように支援を行っていきたくと考えております。

### 専門領域部小児班

役 職	氏 名	所 属
班 長	中村 善則	熊本託麻台リハビリテーション病院
班 員	浪本 正晴	熊本託麻台リハビリテーション病院
	井手 義智	九州中央リハビリテーション学院
	上鶴恵理香	熊本託麻台リハビリテーション病院
	奥村まなみ	放課後等デイサービス RUNA
	坂本佳与子	くまもと江津湖療育医療センター
	末吉なるみ	熊本託麻台リハビリテーション病院
	杉野 博文	けいず訪問看護ステーション
	竹元 彩貴	くまもと江津湖療育医療センター
	田崎 堯之	熊本県こども総合療育センター
	中山 夢	熊本託麻台リハビリテーション病院
	福嶋 隼人	熊本託麻台リハビリテーション病院
	本田 洋一	くまもと江津湖療育医療センター
	村木 友美	江南病院
	本村 仁	江南病院
	山内 一正	児童発達支援☆放課後等デイサービス STELLA



## 専門領域部スポーツ班 班長 川中 洋平

専門領域部スポーツ班は、スポーツ現場での活動を積極的に行っている会員で構成され、パラ競技を含む各種大会のサポートや、一般の方も受講できるテーピング講習会などを実施しております。スポーツの発展に伴い、理学療法士のスポーツ競技への関与の機会も年々増えていることを実感しております。

会員の皆様の中には、スポーツをきっかけに理学療法士を目指した方や、スポーツに関わっていききたいと考える方も多いと思われま。スポーツ班の活動において、皆様に参加いただける場を作るために、企画や情報提供などを行うことを考えております。

今後も、理学療法士の育成や地域の皆様が楽しくスポーツを行える環境づくりに貢献して参りたいと存じます。

### 専門領域部スポーツ班

役職	氏名	所属
班長	川中 洋平	成尾整形外科病院
会計	勝矢 美樹	成尾整形外科病院
班員	荒木 理恵	熊本保健科学大学
	池田 真人	整形外科井上病院
	枝尾 久美	熊本保健科学大学
	大津 知昌	成尾整形外科病院
	木村 淳一	自衛隊熊本病院
	園村 和輝	おおつか整形外科
	谷川 直昭	甲斐整形外科
	西 沙也佳	整形外科桜木クリニック
	西村 英治	リハプライド 平成けやき通り
	橋本洋一郎	熊本整形外科病院
	早野 翔大	甲斐整形外科
	東 利雄	熊本機能病院
	松生 悟	桜十字病院
	松原 淳一	熊本整形外科病院
	水田 順司	整体院 海沙～ミサ～
	若松 元太	自衛隊熊本病院



## 専門領域部中枢神経班 班長 岡本 彬

中枢神経班は、熊本県内の中枢神経領域に関わる理学療法士に向けて、より専門的な知識・技術を発信出来るように努めています。

近年は会員の学術研鑽を目的に、全国的に著名な先生を招いた研修会や、熊本県内の会員である理学療法士を講師とした研修会を企画し、熊本県の中枢神経領域に関わる理学療法士への情報提供・スキルアップにつながるような活動を行っていました。

今後も、中枢神経領域で活躍される会員の皆様への情報提供や、学術研鑽に寄与できる活動を企画していきたいと考えております。

### 専門領域部中枢神経班

役職	氏名	所属
班長	岡本 彬	にしくまもと病院
班員	小原 卓己	熊本リハビリテーション病院

	楠田 賢斗	熊本労災病院
	後藤 啓太	朝日野総合病院
	齊藤奈津美	にしくまもと病院
	島田 裕太	訪問看護ステーション Cruto 玉名
	田中 康則	熊本機能病院
	濱崎 寛臣	熊本機能病院
	藤井 廉	武蔵ヶ丘病院
	宮本 彰吾	有明成仁病院
	宮良 広大	九州看護福祉大学
	吉村 夏海	訪問看護ステーション Cruto京町



### 専門領域部糖尿病班 班長 富岡 勇貴

熊本県理学療法士協会設立50周年おめでとうございます。

約30年前に分野別小委員会から活動を開始した糖尿病班が、現在でも活動できているのは、協会活動に尽力いただいた先輩方や会員の皆さま、様々な関係者の方々の支援あってのことと思います。世界的に糖尿病患者数は増加傾向にあり、糖尿病は社会的にも身近な疾患となっております。糖尿病班は熊本県下の対外的依頼に対して理学療法士として専門的な立場から諸問題への対応、支援など活動を行っております。また研修会の企画運営などを通して協会会員、医療関係者の皆さまへ知識、技術など啓発活動も行なっており、今後も必要とされる支援を通じ協会内外の活動に貢献できればと思っております。

#### 専門領域部糖尿病班

役職	氏名	所属
班長	富岡 勇貴	熊本リハビリテーション病院
理事	林 寿恵	阿蘇温泉病院
会計	前川 直也	水俣市立総合医療センター
班員	池田祐太郎	朝日野総合病院
	上村 斐香	宇城総合病院
	内田 妥美	国立病院機構熊本南病院
	木野 広幸	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	工藤 周平	朝日野総合病院
	近藤 詳吾	新生翠病院
	佐伯 将太	阿蘇温泉病院
	澤村 一豊	菊池中央病院
	田中 謙伍	熊本中央病院
	津山 友希	球磨病院
	中山 優恵	にしくまもと病院
	平野 順子	三森循環器科・呼吸器科病院
	藤原 照美	宇城総合病院
	藤本 祐輔	西日本病院
	古川 繁	熊本リハビリテーション病院
	溝上 真也	球磨病院





## 専門領域部訪問リハ班 班長 亀田 由美

専門領域部訪問リハ班のこれまでを振り返ってみますと、班設立のきっかけは十数年前、協会に届いた一通の会員からの手紙でした。その当時、訪問リハの世間における認知度は低く、訪問リハサービスを会員および地域の方々へ広報を希望するという内容だったと思います。その後、訪問リハ対策特別委員会が立ち上がりました。

現在の訪問リハ班の活動は、主に訪問リハ未経験の会員や実際に従事している会員に向けて事例紹介を通じ訪問リハサービスの活用法を提示すると共に、作成したパンフレットを通じて地域の方々に情報提供を行っています。今後益々訪問リハのニーズは高まってくると思います。地域の方々にしっかり利用して頂ける様に情報発信を行っていきたいと思います。

### 専門領域部訪問リハ班

役職	氏名	所属
班長	亀田 由美	熊本セントラル病院
班員	市瀬 郁子	熊本リハビリテーション病院
	井上 侑樹	(株)くますま
	岩田 輝彦	訪問看護・リハビリステーション ふいっと
	大塚 猶貴	阿蘇温泉病院
	大町 康一	朝日野総合病院
	北田 隼人	有明成仁病院
	島本 未希	(株)くますま
	田邊 龍太	訪問看護ステーション 清雅苑
	蜂屋 祐未	(株)くますま
	松岡由紀子	有明成仁病院
	村尾 彰悟	訪問看護ステーション 清雅苑
	渡邊 静海	熊本セントラル病院



## 地域局 局長 飯星 雅朗

地域局は、県下10ブロックで構成され、県民や会員のためにそれぞれが事業を展開しています。具体的には、県民の医療・保健・福祉向上のため、各種公開講座の開催や各地で開催されるイベント時の救護班動員支援、健康体操リーフレットの配布など、多岐にわたり事業を実施しています。また会員に対しては、各種勉強会や症例検討会の開催、ブロック会議での情報交換など、会員一人ひとりの資質向上に努めています。

これからも地域局は、県民や会員のために貢献し、一人ひとりが「参加して良かった」と言ってもらえるような活動を続けていきたいと考えております。

### 地域局

役職	氏名	所属
局長	飯星 雅朗	九州中央リハビリテーション学院
理事	保田 佳史	くまもと県北病院
理事	山口 里美	宇城総合病院
理事	吉橋謙太郎	谷田病院
熊本市中央ブロック長	植田 陽介	九州記念病院
熊本市東ブロック長	宮村 潤一	くわみず病院
熊本市西ブロック長	中川 貴寛	せんだメディカルクリニック
熊本市南ブロック長	中西 博紀	介護老人保健施設 御船清流園
熊本市北ブロック長	高野 雅弘	熊本再春医療センター
県北ブロック長	本多功二郎	荒尾市立 有明医療センター
菊阿ブロック長	下山敬太郎	小国公立病院
県南ブロック長	奥 祐俣	国保水俣市立総合医療センター
八代ブロック長	小島順一朗	Let's リハ! 八代南店
天草ブロック長	坂本 拓也	天草第一病院 通所リハビリテーション はるかぜ



## 社会局 局長 林 寿恵

社会局は、協会の基本方針のひとつである県民の保健、医療及び福祉の発展に寄与するための事業を担っています。県民の皆様の予防、健康づくりを支援するため、「県民健康スポーツ教室」「市民健康講座」「PTあっと公開講座」を開催している公益事業推進部、地域を支援する会員を地域リーダーとして育成する「介護予防・地域ケア会議推進リーダー」「福祉研修」を開催する保健福祉部、診療・介護報酬改定にむけた情報や「介護支援専門員試験対策講座」を実施する医療保険部、介護保険部があります。また理学療法に関する情報を県民の皆様へ広く周知し、理学療法士が社会的地位の向上を目指すべく広報活動を行う、広報宣伝部の5つの部から構成されております。社会局には、光本理事、坂田理事、竹内理事の3名が担当しており、光本しのぶ前局長から昨年度より林が後任として局長を務めています。



## 公益事業推進部 部長 宮田 祥希

公益事業推進部では、3つの事業を通して熊本県民の皆様々に理学療法士を知っていただくための啓発活動を行っております。

その中でも代表的なものは、年に一度理学療法の日に開催される「くまもと『PTあ！(ピタ)っと健康講座』」です。今年で第20回目を迎え、毎年熊本県民の皆様々の健康増進を図る内容について、実技を踏まえながら開催しております。近年はコロナ禍の影響で、様々な制限がありましたが、理学療法士について理解を深めていただくと共に、理学療法士として熊本県民の皆様々の健康増進ができるような活動を続けていきたいと思っております。

### 公益事業推進部

役職	氏名	所属
部長	宮田 祥希	あけぼのクリニック
副部長	山下 俊	熊本駅前看護リハビリテーション学院
会計	和田 昂也	訪問看護地域リハステーション あーくす
部員	松村 忠明	熊本託麻台リハビリテーション病院
	富永 仁人	比企病院
	竹本 早岐	合志第一病院
	濱崎 文将	リハセンター みどりの樹 楠
	野口 京恭	熊本田崎クリニック
	志水 大翔	菊南病院
	畝見 美穂	熊本リハビリテーション病院
	富永 成美	熊本託麻台リハビリテーション病院
	下林 嗣宜	菊南病院
	城 亜矢乃	菊南病院
	大嶋 慶神	菊南病院
	平岡 由衣	菊南病院
	松下 和史	あけぼのクリニック



## 保健福祉部 部長 田代 幸大

保健福祉部は、公益事業である福祉研修会を開催し、「腰痛を起こさない動作について」「骨盤ウォーキング」「就労支援について」など、住民や医療従事者向けに研修会を開催し、熊本県の一次予防に努めております。近年は推進リーダー導入研修会を開催し、地域で活躍できる理学療法士育成にかかわり、また、取得後も更なる学びが行えるように推進リーダーステップアップ研修を実施しております。

高齢化や地域共生に向けて、保健福祉分野は今後も重要な位置づけになると考えております。熊本県民の健康を第一に考え、地域の方々には有益な情報を提供するとともに、地域で活躍される会員の学術研鑽に協力・支援できる魅力ある組織運営を目指してまいります。

## 保険福祉部

役職	氏名	所属
部長	田代 幸大	山鹿温泉リハビリテーション病院
会計	里井 宏之	介護老人保健施設 ぼたん園
会計	永井 美帆	訪問看護ステーション みゆきの里
理事	光本しのぶ	訪問看護ステーション きらら
部員	伊東 善範	やまが元気倶楽部
	上田 侑佳	介護老人保健施設 ぼたん園
	梅田 幸成	杉村病院
	大浦 佳子	九州看護福祉大学
	大塚 浩貴	山鹿温泉リハビリテーション病院
	鬼塚 徹	桜十字熊本宇城病院
	齋藤 翔太	江南病院
	齋藤 博昭	阿蘇温泉病院
	下田 絢介	介護老人保健施設 ぼたん園
	白崎 幸紀	くまもと温石病院
	平 和也	江南病院
	辻本 真也	介護老人保健施設 清雅苑
	鶴戸 孝之	SandK
	寺井 一樹	山鹿温泉リハビリテーション病院
	中園健太郎	御幸病院
	長友 祐季	外間整形外科医院
	西 英夫	春日クリニック
	本田 知也	熊本セントラル病院
	宮本 朋美	みゆき天明クリニック
	森 博俊	くまもと温石病院
	山口 和志	江南病院
	山下 大翔	江南病院



## 医療保険部 部長 山下 智弘

医療保険部は、「医療保険診療研修会」「医療保険関連の問い合わせ窓口業務」「復職支援」を主な事業として部員と協力し遂行しています。医療保険診療研修会において、診療報酬改定の年には会員の皆様にできるだけ早く正確な情報提供を心がけていますが、近年厚生労働省や日本理学療法士連盟、インターネット上に改訂直後より情報が提供されており、時代の変化に応じた魅力のある研修会の企画・開催をしたいと思います。同時に会員の皆様からの医療保険関連の問い合わせに対し、迅速対応できるよう正確な情報の収集と回答に心掛けていきたいと思っています。

### 医療保険部

役職	氏名	所属
部長	山下 智弘	宇城総合病院
会計	磯江絵里奈	寺尾病院
理事	竹内 久美	熊本託麻台リハビリテーション病院
理事	光本しのぶ	訪問看護ステーション きらら
部員	内田 康弘	桜十字熊本宇城病院
	江上 徹	熊本託麻台リハビリテーション病院
	橋本 和知	桜十字八代リハビリテーション病院
	春野 能子	熊本託麻台リハビリテーション病院



## 介護保険部 部長 井柄 涼輔

介護保険部では、介護保険に関わる知識の共有と、各地域におけるサービスの活用普及を目指して様々な研修会を開催しています。

介護保険制度が始まり約20年が経過し、理学療法士の介護分野への展開も徐々に増えております。セラピストが介護サービスの在り方や役割を正しく理解することで、医療と介護の連携をより密にすることが可能です。また理学療法士がその中心となることで人の生活の予後を見据えた地域包括ケアの実現に寄与できると思います。数年ごとの各法改正に伴い、国が求めているニーズを速やかに把握できるよう研修会の開催支援を行っていきます。

### 介護保険部

役職	氏名	所属
部長	井柄 涼輔	歩行リハビリセンター HOKORU 健軍
部員	磯江絵里奈	寺尾病院
	内田 康弘	桜十字熊本宇城病院
	橋本 和知	桜十字八代リハビリテーション病院
	前田 裕介	訪問看護ステーション spito- スピット-



## 広報宣伝部 部長 今田 強

広報宣伝部は、広報誌の発行、ホームページでの情報発信、ノベルティグッズの配布などを通して、県民の皆様方の医療・保健・福祉の向上に寄与すると共に、熊本県理学療法士協会や理学療法士について知っていただくことを目的として活動を行っております。

昭和59年に創刊された広報誌「かくどけい」は当初は会員向けでしたが、公益社団法人への移行後は、特に県民の皆様方を対象として、医療・介護情報や各部・ブロックの活動などの情報を発信する広報誌へと変化していきました。

また、日本理学療法学会連合の各法人学会・研究会や他団体主催の学会、研修会についての広報依頼にも対応し、ホームページ上にて会員に向けた情報発信も行っております。

今後も県民の皆様方や会員に向けて、有益な情報をお届けできるよう努めていきたいと考えております。

### 広報宣伝部

役職	氏名	所属
部長	今田 強	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
理事	坂田 大介	熊本機能病院
部員	岩見 幸省	自宅会員
	梅津 翔平	平成とうや病院
	大平 清貴	水前寺とうや病院
	金子 祐大	熊本託麻台リハビリテーション病院
	久保 大輔	熊本機能病院
	小村 拓也	水前寺とうや病院
	田寄 誠観	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	田中 智博	熊本託麻台リハビリテーション病院
	富永 史也	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	西山 由華	平成とうや病院
	福田 哲郎	水前寺とうや病院
	堀 健作	介護老人保健施設 清雅苑
	丸目 善頌	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	椋島 茉莉	リハビリテーションセンター熊本回生会病院



## 学会評議委員会 委員長 筒井 宏益

学会評議委員会は、年1回地区ブロック担当で開催される「熊本県理学療法士学会」の事業管理を行います。具体的には、1) 学会長、副学会長の推薦 2) 事業計画報告 3) 会期、開催場所確認 4) 演題審査 等です。理学療法に関する学術、技術の研究ならびにこれに関する事業を行います。参加者が最新の知見や技術を習得することで、時代の変化に合わせたリハビリテーションサービスの質的向上を図ることが出来ると思われま。一般県民に対しては、公開講座などを通じて、疾病の成り立ちやリハビリテーション並びに理学療法士の内容とその役割などを説明することで、県民の健康意識の向上を図り、高齢者・障がい者（児）その家族を含む生活支援に繋がることを目的としています。

2022年11月20日には、菊阿ブロック担当にて第25回熊本県理学療法士学会を開催されました。テーマは「温故知新！『熊本から、明日への提言！』」としコロナ禍を考慮してWeb形式で執り行いました。「特別講演」、「特別セミナーⅠ～Ⅳ」、「一般演題」の構成で、県内外より371名の会員が参加し、盛況にて閉会しました。

これからも、会員の皆様が積極的に参加していただける魅力的な学会を目指していきたいと思ひます。

### 学会評議委員会

役職	氏名	所属
委員長	筒井 宏益	江南病院
理事	波多埜克宜	にしくまもと病院
委員	今村 太泉	さかなしハートクリニック
	今屋 将美	熊本機能病院
	上村 恭生	西整形外科医院
	宇野 晃輔	宇城総合病院
	加藤 孝則	熊本総合医療リハビリテーション学院
	木村 昌美	関整形外科医院
	河崎 靖範	熊本リハビリテーション病院
	杉本 裕美	介護老人保健施設 愛・ライフ内牧
	高木 雛子	江南病院
	瀧下 慎市	杉村病院
	土佐 太志	天草市立牛深市民病院
	平尾 総康	江南病院
	宮木 一也	天草中央総合病院
	宮崎 勝識	阿蘇温泉病院
	森内 陽介	デイサービス ソライロ
	山畑 公弘	天草中央総合病院附属介護老人保健施設
	新名 祐介	にしくまもと病院



### 政策企画室 室長 緒方 美湖

政策企画室は、平成26年に発足した常設委員会の一つで「夢や理想を語る場」です。「より良いリハビリテーションを提供する為に理学療法士や理学療法士協会がどうあるべきか」を話し合い、新規事業案、業務改善案、業務削減案などを熊本県理学療法士協会会長・理事へ提言することが役割です。近年、社会から理学療法士に期待されている役割が変化しています。これらを踏まえ、これまでに「事業の見直し、学生会員の新設、県下ネットワークの再構築、会館設立に向けた動き、情報配信アプリの開発、公益的活動の実施、ブロック活動の在り方、収益事業にむけた体制整備」などを提言してきました。

これからも、会員の皆様が十分に力を発揮し、理学療法士が社会に貢献し続けるような提言を熊本県理学療法士協会に行って参ります。

#### 政策企画室

役職	氏名	所属
室長	緒方 美湖	熊本リハビリテーション病院
理事	大籠 安男	株式会社南阿蘇ケアサービス
理事	波多埜克宜	にしくまもと病院
理事	吉橋謙太郎	谷田病院
理事	北尾 昌平	株式会社ともいき Labo
室員	有馬 正英	熊本市役所
	片岡 史一	リハビリデイ ほっと+プラス
	川上 竜也	平山整形外科医院
	北田 隼人	有明成仁病院
	酒見 亮	有明成仁病院
	瀧下 慎市	杉村病院
	谷川 直昭	甲斐整形外科
	古澤 良太	熊本リハビリテーション病院
	長尾 俊宏	谷田病院



### 倫理委員会 委員長 大橋 妙子

倫理委員会は、(公社)熊本県理学療法士協会の会員において、社会人として基礎的な資質向上を図ること、並びに医療専門職としての倫理観やリハビリテーションを実施する中で適切な対応を身に付けることを目的に活動しています。

医療を取り巻く多様な社会において、医療者・患者・家族との信頼関係や円滑な職場環境を構築できるよう、医師・弁護士・認定心理士などを研修会講師にお招きし、会員に必要な職業倫理や臨床倫理に関わる情報提供・問題提起のための企画・運営に取り組んでいます。

#### 倫理委員会

役職	氏名	所属
委員長	大橋 妙子	熊本機能病院
書記	山下 翔平	介護老人保健施設 おおつかの郷
委員	今泉久仁子	熊本リハビリテーション病院
	樽山 順子	介護老人保健施設 おおつかの郷
	福岡 進	九州中央リハビリテーション学院





### 組織体制審議委員会 委員長 酒見 亮

組織体制審議委員会は平成6年に社団法人熊本県理学療法士協会が設立された際、当時、会長であった小川克巳先生の提案により、本協会の事業を審議する委員会として法人事業審議委員会を発足。現在は組織体制審議委員会として活動しております。坂崎会長の下、日本理学療法士協会の理事会審議事項や各部局の活動内容、情報を基に、各委員で共有し、熊本県理学療法士協会の活動や動向、情報共有を行っております。今後も日本・熊本県、両理学療法士協会の動向調査を行い、微力ではございますが貢献できればと考えております。

#### 組織体制審議委員会

役職	氏名	所属
委員長	酒見 亮	有明成仁病院
会計	尾川 隆	平山整形外科医院
会長	坂崎 浩一	熊本総合医療リハビリテーション学院
副会長	岸本 稔	九州中央リハビリテーション学院
監事	北里 堅二	水前寺高齢者複合施設
理事	大籠 安男	株式会社南阿蘇ケアサービス
理事	筒井 宏益	江南病院
理事	波多埜克宜	にしくまもと病院
	岩本眞一郎	リハ強化デイサービスセンター あ・ふる～る
	片岡 史一	リハビリデイ ほっと+プラス
	椛嶋 洋介	介護老人保健施設 聖ルカ苑
	杉本 裕美	介護老人保健施設 愛・ライフ内牧通所リハビリテーション
	仙頭 城二	谷田病院
	瀧下 慎市	杉村病院



### 選挙管理委員会 委員長 坂井 亮一

選挙管理委員会は、一般的に選挙の管理執行と選挙啓発を行う機関であり、理学療法士協会においては、2年で任期満了を迎える熊本県理学療法士協会役員選挙、及び3年で任期満了を迎える日本理学療法士協会の役員選挙を行っております。特に熊本県理学療法士協会の役員選挙では、ホームページや各ブロック長を通じて選挙の開催のお知らせや立候補受付、開票や選挙結果報告をお伝えしています。今後も公平性を保った委員会として活動していきます。

#### 選挙管理委員会

役職	氏名	所属
委員長	坂井 亮一	桜十字病院
委員	奥村 哲生	株式会社 Cruto

## 熊本県理学療法士協会 シンボルマークの変遷

昭和63年～平成6年



力強い阿蘇山の噴煙をイメージ  
しました

平成6年～平成23年



- 当協会会員 牛島俊晶 氏が作成しました
- 熊本の県花「りんどう」と当協会のコラボレーション！

平成23年～現在



- 当会 佐藤 亮 理事が作成しました

### 現シンボルマークコンセプト

テーマは「共創」です。人とひとが向かい合い、手と手を取り合う姿を、熊本の地形をデフォルメしたデザインに託しています。

赤：火の国、青：水の都、緑：阿蘇・天草

## 編集後記

昭和46年に熊本県理学療法士会が発足し、令和3年に設立50周年を迎えましたが、その前年に新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）が発生し、50周年記念事業の開催を延期しておりました。令和5年5月、COVID-19が5類感染症に移行し、日本全国が平穏を取り戻しつつあることから、九州理学療法学会大会の熊本開催に併せて、50周年記念式典及び祝賀会を開催することとなりました。また記念事業の一環として「50周年記念誌」の発行に至りました。

50年の歴史を紐解くにあたり、数多くの資料を参考とさせて頂き、発足時5名より現在2,500名を超える会員数まで発展した当会のあゆみを確認し、改めて今まで所属された会員の皆様、当会の運営にご尽力頂いた各種団体・賛助会員様の業績に触れることが出来ました。資料に沿って作成しましたが、もし誤植、不足の点がございましたら誌面をお借りしお詫び申し上げます。

最後に、記念誌を作成するにあたり原稿執筆を快くお引き受け頂いた皆様、資料をご提供頂いた諸先輩方、記念式典及び祝賀会にご参加頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。

記念誌編集委員一同

記念誌編集委員 坂田 大介(熊本機能病院)  
林 寿恵(阿蘇温泉病院)  
山口 里美(宇城総合病院)  
竹内 久美(熊本託麻台リハビリテーション病院)

## 熊本県理学療法士協会50周年記念誌

---

発行：令和6年3月31日  
編集：熊本県理学療法士協会編集委員会  
〒861-8045  
熊本県熊本市東区小山2丁目25-35  
TEL：096-389-6463  
印刷：株式会社 太陽社  
〒862-0972  
熊本市中央区新大江2-5-18  
TEL：096-366-1251 FAX：096-364-7672

---